れには前に述べたやうに色々な原因があつて、必ずしも不平・反抗等の意思があつて起る場合のみでなく、精神に幾分の異常ある爲めに起ることの往々あるは、注意すべきことである。但しかくの如き異常ある兒童は、其の日常の生活に於ても、普通兒と相違した點が見られ、時には茫然として居ることもあれば、何物に對しても興味を缺いて居ることもあつて、性質は多く不活潑・陰鬱で、著しい氣分の變化を伴つて居ることもある。從つて精細に觀察すれば、惡意其の他の特別な動機から起るものと、容易に區別することが出來る。かかる兒童に向つては、いふまでもなく精神病の專門家に診斷を仰いで、相當の處遇をすることが肝要である。

第十二章 性的惡癖

第一 概說

性慾に關する問題は、假令其の程度と範圍とを異にすることはあつても、總べての人に於て起り且頗る重要視すべき問題であるが、問題の性質として、故らに又は已むを得ずに、研究されて居らぬことが少くない。殊に兒童に關する性慾上の問題は、この問題に對して相當に顧慮すべき境遇にある人に依つても、比較的に等閑視されて居ることがある。

これは要するに、性慾に關する注意は、思春期前後に達した兒童に於て初めて必要であつて、それ以前の幼少な兒童は、この種の經驗に接することが極めて稀である、といふ一面的の思想から起る場合が多い。けれども實際上に於て、兒童の性的經驗は、頗る早くより現れ、其の間に種々の注意すべき事實が存在して居

る。

而して兒童が性的方面に對して興味を感ずるに至るのは、必すしも一定しては居ない、これが條件としては一般に、先天的素質・土地の氣候・健康狀態・年齡・團繞界等の、種々なる性的生活に關係の深い事實が注意され、兒童は何れもこれ等の多くの條件に支配されて、性的經驗の第一步に入るのである。但し兒童の日常生活に於ける種々の方面を觀察すれば、少年期以前幼兒期の終頃に於て、既に明かな性的興味の發現が見られる。例へば未だ學齡期に達せざる兒童が、他の兒童を罵詈し若くは互に戲れ居る場合にも、往々にして性的意味の包含された言語・擧動を現すことがある。尤もこれ等の原因には、團繞界の不良な影響の著しく加味されて居るのはいふまでもないが、少くもかかる幼少の時期に於ける兒童も、かかる事實に對して一種の興味を有することは、爭はれぬことである。バーンスなども、幼少な兒童が既に猥褻な言語に對して、興味を持つて居ると注意して居る。

從つて兒童の性的惡癖に關する問題も、頗る幼少の時期より起るものであるけれども成熟の意味に於ける尋常の生殖生活の發現は、各方面からの注意深き研究の結果、溫帶地方に住するものにありては、小學卒業頃の年齡である。バーンスは、兒童が十二歲以後に至れば、性的感興が强く發達して、異性の兒童と共に居ることに、特殊な興味を有するに至るというて居る。又チーヘンは、女兒にありては十三歲乃至十五歲、男兒にありては十五歲乃至十六歲に於て、生殖生活の發現が見られるが、特殊な場合として、貧血狀態にある時には、その時期が延引し、又熱帶地方に住めるものは、頗る早く成熟する傾向があるといふて居る。されば、これを一般の場合より論ずれば、小學卒業の頃に於て、最もこの性的惡癖に對する種々な問題があるのである。而して就中第一に注意すべきものとしては、兒童の自慰である。

但しここに一言すべきは、兒童の自慰を發生的に觀察することである。フロイ

ドなどは、兒童の性的生活を普通の意味に於ける性的生活よりも、遙に初期の單純な方面から認めて、苟も快感を與へる感覺であれば、其の何たるを問はず性的生活に有意味なものであるといふのである。殊に皮膚の觸覺の最も鋭敏なところ、例へば羞恥部はいふまでもなく、唇・拇指等は、何れもこれに關係を有する身體部位であつて、かかる快感を與へる部位を、フロイドは、特に色情帶と名づけて居る。而してこれ等の色情帶は、身體の何れの部位にもあるといふのでなく、或限られた範圍にのみあるのである。

かくて色情帶は、他人を俟つことなく、兒童自らがこれを刺戟して、獨り滿足を味ふことが出來るから、エリスなどは、これを特に自己色情と呼んで居る。所謂自慰なる現象は、要するにこの自己色情に外ならない。かの幼兒が、饑餓の滿足を得て居る時にも、自己の拇指や他人の身體に、唇を觸れて吸込む運動をなすのは、自己色情の享樂に過ぎない。尙これに類する動作は、必ずしも幼兒のみには

限らないで、相當の年齡に達しても、繼續して行はれることがある。而してこの口で吸込む運動は、胸部や羞恥部などの感覺鋭敏な身體部位を摩擦することに聯合し、漸次に普通の意味に於ける自慰に變化して行くことが多いといはれて居る。

吾人がここで述べやうとする自慰は、かかる發生的意味からした簡單な形式のものよりも、稍複雜になつて居るもの、即ち羞恥部を自ら弄んで、性的滿足を得んとするものである。

第二 兒童の自慰

上述の如き意味に於ける自慰をなす傾向は、決して人類に於てのみ見られるものでなく、スタンレー・ホールは、猿や犬や馬や象や七面鳥等にも、往々見られることを述べ、又モルなどは、孤獨生活をなせる家畜類に於ては、色々な形式でこれが行はれるというて居る。

自慰に關しては、相當に古き時代より、多く醫學者に依つて研究されて居つた

けれども、これが科學的に研究されて、識者の注意を惹くに至つたのは、ブイレーが、『女子に於ける自慰』と『男子に於ける自慰』の二著を公にし、其の所見を發表してからである。

殊に一八九四年ブタペストに開かれた萬國衞生會議に於て、ヘルマン・コーンが、『學校兒童の自慰に對しては如何なる處置を執るべきや』の論文を公にして以來、これに關する一般の醫學者の注意は一層高められ、更に廣く教育家其の他に依つても注意され、これに關する各方面の研究も、頻々として發表されるに至つた。かくて今日に於ては、兒童の問題に關聯して、看過すべからざる一方面として取扱はれるやうになつた。

一、自慰の起る時期　然らばこの惡癖は、兒童の如何なる時期に於て起るものであるか、これに關しては種々な報告があつて相一致しては居ない。

一部の學者は、生後四ヶ月乃至五ヶ月後の乳兒が、上脚を磨擦しつつある事實

を擧げて、これは乳兒が一種の快感を得て居るのであつて、自慰の最も初期のものとしてよいというて居る。例へば、ネーテルなどは、マンハイム市の學齡未滿の兒童で、自慰癖あるものを研究し、其の最も幼少なものに、一歳未滿のものを認めて居る。但しかかる動作か、果して生殖部位の快感を得て居るのであるか否かは、疑問の餘地がないといはれない。エリスやモルは、かかる傾向の兒童は、大體に於て神經系統の平準に、先天性缺陷あるものといはれるというて居る、

けれども多くの研究家は、學齡期頃に於て其の初徴を見ると述べて居る。メイロヴスキーは、兒童の百分中七十一は自慰を行ふものであつて、其の初めは七歳乃至十歳であるが、この頃には其の割合が頗る少い、十二歳頃から漸次に增加し、十四歳に至つて最も其の割合が多いというて居る。スタンレー・ホールなども、十二歳乃至十四歳に於て自慰の最も盛に行はれるといふことは、多數研究者の相一致するところであるというて居る。

而して自慰の最も昂進して現れる時期は、一般に思春期の前であるとされて居る。

二、自慰の行はれる範圍　一般に自慰は、如何なる範圍にまで擴がつて居るものであるか、これ頗る注意すべき問題である。今各國に於ける研究家の調査したところを見るに大凡次の如き狀態である。

獨逸に於ては、コーンが獨逸國内の主な醫者二萬一千人と醫學生八千人に質問書を送り、其の記憶と觀察とに基づいた無記名の回答を求めたのに、極めて廣い範圍に自慰の行はれて居ることが知られた。マルキュースは、自己の經驗から青年男子の百分中九十二は、自慰を行つて居た。ローレデルは、これ以上に多數を認めて居る。

英國に於ては、デュークが寄宿制度ある學校の生徒に就いて調査し、寄宿生の百分中九十乃至九十五は、自慰を行つて居つた。

亞米利加に於ては、シーャリーが百二十五人の學生を調査したのに、其の中百分の六のみが、自慰の經驗を有しないものであつた。ブロックマンは、神學の學生を調査したのに、これにすら百分中六十六は、自慰を有意的に行つたものがあつた。

露西亞に於ては、シュレノッフはモスコウ市の學生を調査して、其の百分中六十は、自發的に自慰を初めたものであることを見た。

但しかかる方面の告白は、何人にも羞恥の感を伴ふものであるから、假令無記名記述等の適當な條件を附して調査しても、尙眞實の告白をなさぬもののあるは、寧ろ自然の傾向である。從つて上述の割合は、必ずしも全部を盡した割合ではなくて、實際上は一層多くの割合が存するものと推測されるのである。モルなども、この種の考を有して居る。

かくの如くに自慰は、極めて廣い範圍に行はれて居るものであるから、他の嘘

言や窃盗等の惡癖に比較して、假令普通の狹い意味に於ける道德上の罪惡の程度は低いにしても、兒童に於ける問題としては、極めて重要なものといはねばならない。然るに、かかる方面の觀察は、一般に恥づべきこと好ましからぬこととして、動もすれば一般に等閑視されて居る傾向がある。その爲めに上述の研究家に依つて調査された結果が、極めて誇張的のものであつて、少くも自己の教養の下にある兒童は、全くかかる事實に關係なしとの皮相なる推定の下されて居ることが少くない。

固より自慰を行ふ程度にも依ることであるが、假令ベルグルなどのいふやうに、兒童の殆んど全部にこの傾向があるといふ程でなくとも、兒童の中に多少の程度に於て自慰を行ふものの少からぬは、殆んど疑ひの餘地はない。少くも一般の兒童の養育者が注意して居る以上に、多數の自慰兒のあるは明かである。

三、男女に於て自慰の行はれる割合　自慰が男兒に多く行はれるか、又女兒に

多く行はれるかの問題は、從來多くの研究家に依つて注意され、興味を以て調査された點である。

而してこの問題は、男兒と女兒とが、年齡に因つて其の性的方面の發達狀態を異にして居るから、決してこれを單純に解決することは出來ない、かくて今日のところ、これが解決には尙幾分の距離があるのである。

ティッソーやブイレーなどは、女子に於て多く見られるといひ、クリスチャンなどは、男子に於て多く見られるというて居る。けれども多くの研究家の趨勢は、大體女兒よりも男兒に於て、比較的多く見られるといふやうに傾いて居る。殊にネーテルは、學齡未滿の自慰癖のある兒童二十五例を研究して、女性に於て遙に多く見られるというて居る。但しこれは材料が僅少であるから、其の論據の價値には疑問の餘地がある。

モルなどは、實際に渉つて研究して見ると、若い女子に於ても比較的に多くの

自慰が行はれるやうてあるが、これは女子に早熟的に思春期に入るものが多く、それが多くの場合に早熟的性的習癖を伴ふからであるというて居る。更に、思春期の頃のものや少年期のものに於ては、偶發的の若しくは頻繁の自慰が、男女共に殆んど普通の現象として見られるが、男女何れに多數に存するかは頗る困難な問題てあるといひ、又一面に、男子は其の傳説及び發動的生活から、自慰の傾向を減退せしめることあるに反し、女子はこの抑制的影響を受けることが少い、然るに他面には、女子は男子よりも性的衝動に襲はれ、それが爲めに自慰に至らんとする傾向が、比較的に遲く且難いやうに現れるものであるというて居る。

尤も青年期に入れる頃のものには、事實上女子に於て自慰をなすものが多いと、多くの研究家はいうて居るが、これは社會上の種々な事情から、男子が異性に依つて自然的の性的滿足を得ることが出來易いのに、女子にはかかる事情を多く有して居ないことが、主な一つ條件であるといはれて居る。のみならず青年期に至

れる女子は、自己の性的衝動を今迄よりも一層強く且多く意識して來ることは、殆んど普通のことであつて、純潔に生活せる活動的な・知識ある・健康な女子に於て、自慰か偶發的に殊に月經時に起ることが少くない。而して先天的に一種の精神異常を有し、普通の性的衝動は殆んど起らないで、自慰を行はないのみでなく自然的の性的滿足を得やうともしないで、夢想の狀態に於て受動的に他の方法で特殊な滿足を味つて居るものがあるが、かゝるものゝ女子に於て多いことは、確實なことである。

四、自慰の最も昂進する時期　これは個人の稟性と境遇とに因つて、必ずしも一定したものではないが、一般の場合より推論していふ時には、思春期の前に現はれたものに於て著しいやうてある。エリスやモルなども、この説を有して居る。思春期以後に初まつて、それが著しく昂進するといふが如きは、全く例外として觀てよいといはれて居る。

第三　自慰の原因

自慰の原因に關しては、從來多くの學者に依つて研究されたけれども、これを大別すれば、內的原因と外的原因とである。尤もこの兩者は便宜上の分類であつて、嚴密な意味に於ては明瞭に分けられないで、何れに屬せしめるのが適當であるか、疑はしいものがある。只ここでいふ內的原因とは、主として自己の身體上に關係あるもので、外的原因とは、主としてそれ以外のものを總へて包含するのである。

一、內的原因　これには一面より觀れば、生理的・精神的のものと、病理的のものがある、又他面より觀れば、遺傳的のものと後天的のものとがある。而して病理的のものは、遺傳的のものと相一致する場合が少くない。

1、病理的のもの　これは身體並に精神上に、何等か病理的の缺陷ある爲めに、性慾の異常を起すものであつて、其の注意すべきものは次の如くである。

1　精神薄弱　これは主に遺傳的のものであつて、精神の發達上に缺陷の見られるものである。普通の兒童にありては、相當に抑壓作用が發達して居るから、刺戟に對する性慾の昂進を制御することが出來るけれども、精神薄弱者に於ては、この抑壓作用が不充分である爲めに、刺戟に對する性慾の昂進は容易であつて、自慰の癖に入ることが少くない。

而してこの種のものは、知力の程度に依つて、白痴・痴愚・魯鈍の三つに分け、白痴は其の最も劣れるもの、魯鈍は其の最も輕きものであるが、白痴などに於ては、身體の發育の遲れるのが常であつて、生殖機官も往々萎縮し、從つて自慰などに至らぬのも見られる。

2　精神病性體質　これには遺傳的に得られるものと然らざるものとがあるが、前者のやうに抑壓作用の缺陷があるのでなく、寧ろ想像力昂進又は感情發揚等の爲めに、性慾が過早又は過度に現れ、自慰に至らしめることが多い。但しそ

の場合には、外部の刺戟の關係が、或持殊な性慾異常を起さしめる上に、主なる原因をなして居ることが少くない。この體質は、頭部外傷若くは腦震盪に因つて起ることもあれば、又は神經病・ヒステリー等に因つて起ることもある。

早熟者と自慰との關係は、從來多くの人々に依つて述べられて居るが、其の多くはこの體質を有するものである。但しスタンレー・ホールなどは、肺結核が性的官能の早熟と活動を促すものであつて、其の爲めに自慰の惡癖に至る傾があるというて居る。其の他早熟が、兒童の不良な圍繞界より誘發され、從つて自慰をなすに至ることのあるは、外的原因の項で述べるやうである。

3　身體虛弱　何等か特殊な疾病のある爲めに、常に身體が虛弱であつて、自然に快活な日常の作業が出來ないて怠惰となり、無爲の狀態に傾くものがある。これも亦普通の健全な無邪氣な活潑な兒童の生活と遠ざかつて、往々性的方面に特殊な興味を覺え、自慰に至らしめることがある。これは一面には、身體が虛弱

である爲めに、意志の健全な活動が出來ないで、只刹那刹那に經驗される刺戟にのみ、支配され勝ちになることが、主な條件をなして居るのである。

4　其の他特殊なる疾病　これには注意すべき種々なものがある、結核に關しては2に於て述べたが、其の他主なるものとしては、皮膚の疾患・痔疾・便秘・尿に刺戟性の沈澱物を有すること等が、性慾昂進の原因となり、間接に自慰の誘因となることが屢ある。殊に羞恥部若しくはそれに近接せる部位が、痒みを覺ゆる皮膚病に罹れる時には、自然自慰に至り勝ちである。

疾病その物の問題ではないが、長時日を要する疾病の恢復期中には、無聊・橫臥・精神並に身體の衰弱等の事實が、間接の原因をなして自慰の機會を得せしめ、これが癖に陷らしめることが間〻あると、注意されて居る。

次に自慰と深き關係あるものは、蟯蟲である。これは理論上よりせば、寧ろ外的原因の中に入るべきものである。蟯蟲は寄生蟲の一種であつて、兒童が夜間就

眠して身體の溫まる頃に、肛門を出でて羞恥部を匍匐し、一種の刺戟を與へて性慾を昂進せしめ、從つて睡眠中多くは無意識的の自慰に至らしめることが多い。けれどもかかる經驗は、やがて覺醒中意識的にこれを行ふに至り勝ちである。而して蟯蟲に因るものに注意すべきは、其の性質として、男兒に見られるよりも、寧ろ女兒に於て多く起り易いことである。チーヘンなどは、特にこの點に注意を拂つて居る。

ロ、生理的・精神的のもの　これは特に或疾病を有し若しくは或病的素質を有するのでなく、又外的原因からでもなく、只多くは一時的の生理狀態・精神狀態の爲めに、自慰を起さしめる場合である。

1　怠惰・無爲　これは敎養者の不注意、又は與へられたる作業に對する興味なきこと、或は特別な事情の爲めに反抗的態度を採れること等が、原因をなして居る場合であつて、前述の病理的のもの以外のものである。これも兒童をして自ら

空想に耽らしめ、率いて性的經驗に觸れしめ、自慰に至る機會を與へるものである。この方面の學者は殆んど皆、兒童の空想昂進に對して、特に注意して居る。

2　精神並に身體の過勞　これ亦自慰の原因として、ローレデル其の他の研究せるところであつて、前に述べた病的衰弱の場合と相類した狀態の爲めに、この惡癖に至り易いのである。從つてこれは精神的並に身體的に、虐待され又は酷使されて居る兒童に於て、等閑視すべからざる一面である。

3　其の他異常の生活狀態　これには種々なものがある、ローレデルなどは、長時間の靜座又は起立・過度に單調な繼續的の步行・朝寢等を、自慰の原因として擧げて居るが、何れもこの部類へ入れてよいものである。

4　榮養狀態　これに關して主なるものは食物であるが、多くの論者は、食物を外的原因として述べて居る。けれども後に述べる外的原因たるものと比較すれば、大に其の趣を異にし、寧ろこれを間接なる內的原因と觀るのが至當である。

何となれば食物の性的生活に影響あるは、これが直接に原因として働くのではなく、吾人の身體内部へ入り、生理的に榮養關係を生ずるに至つて、初めて因果關係を認められるからである。換言せば、これは身體の榮養關係なる條件の下に、論ぜらるべきものである。

ローレデルなどは、普通以上の美食と、不消化なる食物とに注意して居る。即ちかかる食物は、性慾を變態に昂進せしめ、自慰に導くものであるといふのである。

而して往々榮養狀態の秀れたるものは、其の劣れるものに比較して早熟の傾向があり、間接にそれが爲めに自慰に陷るものもあるとされて居るが、モルやエリスは、これは未だ證明されたことではないと述べて居る。但し酒精含有物攝取の結果は、性的生活にも異常者多く、殊に早熟の爲めに自慰癖に入るものも少くないといはれて居る。

二、外的原因　これは身體以外の條件が、自慰の原因をなして居る場合であつて、これにも亦種々なものがある。今これを大別して、末梢的刺戟性のものと、中樞的刺戟性のものとに分けて述べやう。

イ、末梢的刺戟性のもの　これは外部の或事物が、兒童の身體上に或感覺を與へる場合であるが、主に羞恥部を刺戟するものをいふのである。

1　不潔　身體の不潔、殊に羞恥部の不潔は、兒童に一種の刺戟を與へ、その爲めに自慰の一原因たることがある。

2　衣服　これは頗る重要なる關係を有して居る。殊に洋服の袴（ズボン）の如きは、一般に學者の注意を惹いて居る。これに就いては、既に一七九一年にファウストが、自己の見解を公にして居る。いふまでもなく袴（ズボン）は、跨部の摩擦に依つて羞恥部に刺戟を與へること多く、又兩側の隱袋（ポケット）は、手を差入れてこの惡癖に入る機會を與へることがあるから、袴（ズボン）はなるべく裕に釣り、隱袋は内方へ長く向かないやうに

淺くし、短く下側方に向はしむべしと出張して居り、或は兒童の袴（ズボン）には全然隱袋を附けざるを可とすると論じ、事實上この種の調製をなせる場合が少くない。スタンレー・ホールも、兒童の袴（ズボン）の隱袋に就いて、注意して居る。

これと同じ意味に於て、袴下（ズボンシタ）・股引・袴等も注意すべきものである、何れも寬に穿たしむべきはいふまでもなく、幼年期・少年期のものは、袴を悉く行燈袴にすべしと主張して居る人が少くない。實際上にも行燈袴は、頗る多く行はれて居るやうてある。

次に一般に衣服を多く襲ねるは害がある、帽子・手套・頸卷等は適度でなければならぬ。これ又スタンレー・ホールの注意するところである。

3　寢具　これが自慰に對して關係あることはいふまでもないが、殊にモルなどは羽薄團の如きは、不適當なものとして排斥して居る。冷かな硬き寢具よりも、溫かき軟な滑な寢具は、觸覺上の聯想から、性的興奮を起さしめる上に、幾分の

關係があるともいはれる。殊に臥床は硬くし、掛薄團は輕くするのが適當である、柔軟な臥床は寢心地よくて、早起に便でない、而して朝寢と自慰とは頗る密接な關係があるのである。

4　特殊な刺戟を與へる運動　これは主に羞恥部を摩擦し、爲めに性的興奮を生ぜしめるものをいふのであつて、ミシン・乘馬・自轉車乘り・木登り等は、普通に注意されて居る。卽ちミシン工場に於ける年少の女子には、ミシンを踏む足の運動から、性的の興奮と滿足とを得て居るものが往々あるといはれる。乘馬や自轉車乘り等も、亦この種の事實がある。

而してこれ等は何れも比較的に繼續性の運動であるから、それのみにて滿足を感じて居ることが多く、これを自慰といふことも出來るけれども、木登りの如きは、その性質から前者のやうに長時間繼續性の運動をなすものでない、從つて單に一時の性的興奮に對する刺戟となるのみで、それ自らが自慰とはならないで、

自慰に至る誘因たることが少くない。固よりミシン・乘馬・自轉車乘り等も、單に性的興奮に至る刺戟たるに過ぎなくて、間接に自慰を導き出來す場合もあるのである。モルなどが、棒登りなる體操の不可なるを主張して居るのも、この木登りと全く同一の理由に基くのである。何れにせよ、これ等のものが兒童の自慰に注意すべき關係にあるのは爭はれないことで、或は女に自轉車乘りを禁じ、或は玩具としての兒童の三輪自轉車を用ゐないやうにし、或は木登りをなさしめないやうに注意し、或は幼少の女子にミシンを踏ませしめない等の意見が、一部に見られるのである。

5　臥床の溫かみ　これは以上述べたものとは、稍其の趣を異にしたものであるが、又注意すべき事實である。殊に朝覺醒してから永く臥床に留まつて居ることは、その溫かみが原因をなして、自慰の惡癖に誘ひ易きものとされて居る。朝寢が自慰と關係あることは、多くの學者の述べて居るところであるが、一つはこ

の臥床の溫かみが、主な條件をなして居るのである。

これと相關聯して春季の溫暖なる氣候は、一つの條件とされて居る。但し氣候が單に末梢的刺戟を與へるのみでないことは、いふまでもない。

ロ、中樞的刺戟性のもの　これは前項に述べた末梢的に刺戟を與へるものではなく、中樞的に例へば情緒の上に、聯想の上に、模倣の上に、性的の刺戟を與へ、それより自慰の惡癖を生ずるに至る場合である。これには注意すべきものが頗る多い。

1　雜誌・書物　不良な動機から人の好奇心に訴へんとするやうな猥褻文書は、兒童の自慰に著しい關係がある。彼等が少年期を離れて青年期に入らんとする頃に至れば、極めて些細なる事實に對しても、充分に性的刺戟を受け、往々人の注意しなかつた點に、自慰の誘因を發見することがある。從つて兒童の眼に觸れしめるものは、決して成人の心を以てこれを判斷してはならない。殊に彼等は性的

關係の事實に對して、極めて強き好奇心を有し、間〻この種の事實を穿鑿的に見て居ることすらあるのである。

ヘルマン・コーンの如きは、基督教の聖書又は一般の字書の中から、性的關係のある文字を除外して、かかる性的惡癖に陷らしめる危險を避けねばならないと主張して居る。

以上は性的刺戟を與へる主として猥褻若しくはそれに近きものに就いて述べたのであるが、必ずしもかかるもののみが、兒童の自慰に關係ありとはいへない。固よりこれは直接のものであるが、間接のものとしては、猥褻の要素のない小說・詩歌の如きものがある。これ等の中には、單に人の冒險心・好奇心・勇氣等を喚起するものもあるが、其の多くは人の精緻なる情緒に訴へるもので、殊に男女間の同情・愛情・嫉妬・猜忌等に觸れたものが少くない。而して若し幼少の時より、かかる情緒を經驗するに於ては、一面に善良な結果のあると共に、他面には空想に耽り勝ちとなり、感情性となり、男女間の出來事に對しては著しき興味と好奇とを以て注意する傾向を生じ、往々にして早熟兒童となり、自慰に至る間接の原因たることが少くない。從つて兒童に與へる文書は、單に其の內容が猥褻でなければ可なりとはいへない、殊に其の稟性にして早熟性又は感情性なるに於ては、寧ろこれを避けるの安全なるに如くはない。この點は、次に述べる繪畫若しくは興行物に對しても亦同樣である。

2 繪畫 一般の兒童に對しては、それが藝術的のものであると否とを問はず、幾分の性的意味の加味されたものには、充分の注意を拂はねばならない。況して性的表現を主とした繪畫の如きは、絕對に兒童より遠けることが肝要である。この意味から學術的書物に挿入されたる繪畫、例へば醫學上の書物に於ける解剖圖の如きも、等閑視すべからざるものである。卽ち思春期に入らんとする頃の兒童は、これ等に依つて往々異常の性的興奮を來たし、爲めに自慰の癖に陷らしめる

ことが少くないのである。

3　興行物　活動寫眞・演劇等が、其の主なるものであつて、かかるものは成人の觀客の感興・好奇心を對象として行はれることが多い故に、成人には單純な感興・好奇心の滿足に止まるが如きものであつても、性的事實に刺戟性の昂進して居る青年兒童には、それ以上に深く强き性的興奮を與へることが少くない。のみならず實際上興行物の如きは、興行者の利益の點から、可成に强き性的刺戟を觀客に與へんと努めて居る、從つてこれ等を目擊する青年兒童に頗る强き性的興奮を起さしめ、自慰の一原因を得せしめることが稀でない。而して興行物は、文書や繪畫よりも、實際の人物が目前に活動して居るから、これが若々しい彼等の精神上に影響することは、一層著しいといはねばならない。

4　交友よりの模倣　年長の交友・既に性的惡習を有せる交友・猥褻なる言語擧動をなせる交友等が、純潔なる兒童に對して、如何に新にして不可思議なる性的

經驗を得せしめるかは、兒童の交友關係を少しく精細に觀察せるものの、何人も注意するところである。勿論これには、交友より直接に模倣することもあるが、時には間接に模倣することもある。

且つ交友の不良なるものは、進んで誘惑的に純潔なる兒童に對し惡癖を得せしめることすら稀でない。殊にかかる事實は、多數の兒童が集合して公開の場所に遊べる場合よりも、却つて二人のみ一室にあつて靜に遊べるやうな場合に見られ易い、少年女子が交友よりこの種の惡癖を得るは、かかる經路のものが頗る多いやうである。而して兒童に於ける性的行爲は、一般に他の行爲に比較して、極めて模倣され易いものであると、多くの學者は唱へて居る。

母親が、家計補助の爲めに、兒童を隣人に托して常に外出せるやうな場合には、殊に上述の如き虞が多い。

5　年長者の惡戲　ここにいふ年長とは、前者と異り年齡に於て頗る懸隔のあ

る年長者を指すのである。吾人が世上間ま見聞するところであるが、年長者が兒童に向つて、自らは無邪氣なる惡戲と心得て、性的興奮に至らしめ又は自慰に誘くが如き言語擧動をなすことがある。これは多くは所謂滑稽家に依り行はれ、時には單に酩酊の興に乘じて又は兒童が羞恥を感じ特殊の態度に出づるを興じて行はれることがある。何れも兒童に對して好ましからぬ影響を與へるのはいふまでもない。

これと共に吾人が注意しなければならぬのは、乳母・下婢・下男・書生・車夫・小僧・子守等の雇人と兒童との關係である。雇人の多くは健全な修養を有しないものであるが、彼等が主家の兒童に對して、早熟性の又は不良の性的經驗を得せしめることは、識者の常に觀察するところである。例へば頑是なき兒童の羞恥部を弄し、猥褻なる言語擧動を經驗せしめるが如きは、極めて普通のことである。甚だしきは主家の兒童を伴へる事實を以て主人を瞞着し、遊里に入る時間を得んとし

て、兒童を遊里に伴つた書生があつた。モルも、獨逸などに見られることとして、子守が子供の泣くのを靜めんが爲めに、羞恥部を擽ぐることがあると述べて居る。但しこれ等の事實は、自己の兒童を雇人のみに放任して、徒に社交其の他に沒頭するが如き母親には、看過され等閑視されて居るのが常である。

6　陰氣な室　暗黑・陰氣などいふ狀態は、人の生活をして不健全ならしめるものであるが、兒童の性的惡癖に對しても、亦忽にされぬことである。即ち陰氣な室に兒童を一人留めて置くことは、自然彼等をして空想に恥らしめ、快活の氣を失はしめ、更に自慰の惡癖に陷らしめることが少くない。これ一には自慰が、一般に秘密の中に行はれるものであるからである。

この意味に於て、兒童に對する罰として、薄暗き室や押入などへ入れて置くことは、注意すべきものである。

7　雜居寢　これは說明するまでもなく、家族若しくは其の他のものと、同じ

寢具の中に雜然と寢ることである。尤もこれは必ずしも中樞的刺戟とのみはいへない、末梢的刺戟の多く加はつて居ることは、事實の上から推して明かなことである。何れにせよ、これが兒童の性的經驗を得る上に、極めて注意すべき關係を有することは、恐らく想像以上であらう。而して雜居寢は、我邦の中流以下の家庭に於ては、普通に行はれて居ることであるが、外國に於てもチーヘンなどが、これを兒童の自慰に至る一原因として擧げて居るを觀れば、又相當の範圍に行はれて居るのは明かである。

一部の論者が、下級生活をなせる家庭の兒童に、比較的に早熟者多く又屢〻性的惡癖者が見られるといふことは、普通にはこれを事實と認めてよいやうである。但しかかる事實の原因の主なる一つが、家庭に於ける雜居寢であることも忘れてはならぬことである。彼等の社會に於ては、往々極端な實例がある。我邦の或都市の貧民町に於て、六疊一室の家に、三家族と他人の情婦が一人住んで居たこと

がある、これは甚だしい例であるが、狹隘な一室に二家族の共同生活は珍しくない、況して四疊若しくは四疊半位の一室に、少年期・青年期の男女の兒童を混へた一家族が、夜間雜居寢せるが如きことは、普通のことである、かかる間にあつて彼等に、性的生活に最も大切な羞恥の感が發達し、純潔の德の養成されんことは、寧ろ不可能なるを以て自然といつてよい。從つて早熟兒が多く、又性的惡癖兒の見られ易いのも、不可思議ではない。

8　動物の交尾　極めて下等な動物の交尾に就いては、一般に人は左程深き注意を拂はないけれども、稍高等なる動物の交尾には、頗る多くの性的刺戟を感ずるものである。然るに犬などの交尾は、都市の兒童も常に目擊するところであつて、彼等はかかる事實の爲めに、其の性的生活に影響を與へることは少くない。更に田園の兒童にありては、一層かかる種類の機會に接することが多い。兎に角、動物の交尾を見たことが、兒童の自慰に直接若しくは間接に關係のあることは、

極めて明かなことである。チーヘン其の他の學者も、これに注意をして居る。

殊に兒童のこの問題に關して最も注意されて居るのは、馬・牛・羊・豚等の家畜を繁殖せしめる場所である。かかる場所に生活せる兒童は、家畜の交尾を目擊する機會に富み、從つて早熟の傾向があるといはれて居る。

9 圍繞界の不純潔　最後に兒童の住居せる圍繞界の狀態が淫靡であることは、彼等の性的生活に早熟と變態とを來たさしめるものである。圍繞界に於て注意すべきは、一に家庭の不純潔で、二に近隣の不純潔である。何れも其の影響の著しいのはいふまでもない、就中前者は彼等の生活と密接のものである丈けに、最も恐るべきものがある、けれども後者も亦極めて等閑視すべからざるものである。淫靡な土地の風習に育つた兒童、又は花柳界に近接した場所に生活する兒童は、彼等の圍繞に於ける言語擧動より、漸次に性的事實に對して、一面には羞恥の感を鈍くし、他面には早熟の傾向を生じ、自然に性的の惡癖に近づき易いので

ある。

上述したところは、何れも自慰の原因たる場合の主なものであつて、普通には これ等の多くの原因の數個が相合して、自慰の癖に入らしめることが多い。殊に特別な內的原因を有して居るやうな時には、極めて些細な外的原因からも、この惡癖を誘發せしめ得るものである。

第四 自慰の害

兒童の自慰の有害なりや否やの問題は、一時學者間にも多少の論爭があつて、或は成熟期に達したもので然もこれを過度に行はざるに於ては、左程に注意すべき危害なしとの說もあり、或は幼少の時に於てのみ注意すべきものであるとの說もあつたが、今日に於ては敎育上・健康上・生殖上等の諸點から、有害なるものと考へられるに至つた。

尤も自慰より生ずる害は、其の現れ方が多くは徐々であつて、且外面上明白に

認められるに至ることが比較的に少いから、假令兒童がそれを有害であると知るに至つても、これを改めるに至らないで、知らず識らずの間に、この惡癖を增長せしめるのである。而してこれが害として認められる主なものは、大凡次の如くである。

一、腦神經に及ぼす影響　自慰の身體上に及ぼす害に就いては、從來色々にいはれて居る。グリージンゲルは、幼少の頃に自慰の行はれた場合には、精神病となるというて居るが、ベルクハンは、自慰自らが精神病の原因たることあらずといひ、其の他フォーゲル、ウッフェルマン、エンミングハウス、モル等も、各其の研究の結果、ベルクハンと同樣な結論に達して居る。エンミングハウスは、先天性神經病者に於ては、先づ自慰が第一の症狀として現れて來ると主張し、キールマンは、自慰をなすに至るのは、魯鈍又はヒステリーを原因と觀ねばならぬと述べて居る。ネッケも、自慰が精神病の原因をなしたと觀られる一例にだも、接

することは出來なかつたというて居る。コッホも、亦これと同樣な見解である。クリスチャンは、病院其の他に於ける二十年間の經驗から、直接に自慰が原因をなした重大な害の例は見られなかつたが、男子よりも女子に於て、有害のやうに思はるるというて居るが、イェローリースは、これに反して男子より女子は疲勞も害も少いと述べて居る。後者の考は、ハンモンドやグットシートやネッケの考と相一致して居る。

而してレーヴェンフェルドは、自慰に因つて確に癲癇性發作を起すといひ、フェレは癲癇並にヒステリーの原因たり得と述べ、又スタンレー・ホールなどは、自慰の結果として痙攣・癲癇・動悸等を起さしめ、神經衰弱・癲狂等の疾患に至らしめることは、多くの學者の認めるところであるというて居るが、これには幾分の異論があるやうである。

卽ちウェストは、自己の多くの患者に對する經驗から、自慰が原因をなして直

接に痙攣や癲癇や白痴に至つた兒童はなかつた、又思春期以後に起つた婦人のヒステリー・癲癇・精神病が、自慰の爲めであつたかと思はれる場合が一例あつた、というて居る。ゴワースは、これを稍消極的に述べて、自慰を眞の癲癇の原因と見んよりは、寧ろヒステリーと癲癇との中間に位するやうな特殊な發作を起すものとし、かかる場合を兒童に於て屢〻見た。ライデンは、脊髓病の原因の下に、性的過度の如何なるものをも加へて居ない。エルブも、自慰が普通の性的滿足に比して、脊髓に對しては有害でないというて居るが、これはツールーズやフールブリンゲルやクルシュマン等と同樣な考である。

コッホは、自慰が如何なる場合にも且正確に、多くの人の信するやうに、極端に有害であると斷言は出來ないが、害のあるのは爭はれないことであるというて居る。殊に神經系統は、最も容易にこれが影響を受けるものである。

嘗てモーヅレーやマロやスピッツカやシューレ等の唱導した自慰的精神病とい

ふが如き特殊な疾病は、一般の傾向としてこれを採用しないのは、明かなことである。クラフト・エービングやネッケは、これを認めない主な學者である。クレペリンは、極端な程度に昂進せる自慰は、必ず其の素質あるものに於てのみ現れるといひ、フォーレルやレーヴェンフェルドやツルーソー等も、同樣な考である。

かくて今日は、自慰を精神病・神經病の原因とはしないで、寧ろ神經病的・精神病的素質あるものに於て、甚だしい自慰癖を生ずるのである。但しかかる素質なくして起る普通の程度のものの多いのはいふまでもなく、前者を病的のものとせば後者は偶發的のものである。

二、精神上に及ぼす影響　これは嚴格なる意味に於て、前者と區別して論ずることの出來ないものであるが、玆では主に心理狀態に現れたる方面に就いていふのである。

モルは、次のやうに述べて居る、自慰が繼續し且昂進して行はれるに於ては、

自己意識の病的昂進を來たすことが、最も屢〻現れ又最も特色のある結果である、けれどもこの自己意識には自重の念を伴つてない。自慰者は、常に其の行爲が社會的に斥けられたやうに感じ、一種の懸念を感ずるものである。これ等の狀態は、自ら彼等をして自重心の故意的意識を養はしめ、尊大に傾かしめるものである。殊に普通の男の自慰者は、怯懦であつて他と離れて生活せんとすることが多い、その爲めに社會に對して遠慮と恐怖とを覺えるに至り、同時に他を輕蔑せんとする傾を生ずるのである。

クレペリンは、自慰の昂進せる場合には、精神能力減退し、外界の刺戟を受取つてこれを理解することが困難となり、記憶力遲鈍となり、感情は興奮性を減ずるか、然らざれば刺戟性を增進して、神經衰弱に至らしめるものであると述べ、モルもこれに贊同して居る。

スタンレー・ホールは、次のやうに述べて居る。自慰は一般に秘密を以て行はれる行爲であるから、自然自慰者に秘密を欲する念を與へるものである。而してこの秘密が、やがて虛飾や僞善の傾向を起さしめるは自然である。更に他方に於ては卑屈や怯懦や利己の念を昂進せしめ、博愛とか慈善とかいふ方面を萎縮せしめ、意志力も自制力も亦減退して來る。若し一度この惡癖に深入りしたものは、修學上・社交上・信仰上共に過度に激烈なもの崇高なものを要求し、一轉しては何等に對しても賞美せず、又無感覺なる狀態となる。

シーヤリーは、自慰の惡癖に耽溺したるものが、これを矯正し制御し能はずと自ら覺悟せる結果、自暴自棄となり、絕望の極、死に依つてこの苦境を脫離せんとした實例を百個擧げて居る。かかる場合は、極めて著しいものであるが、少くも多くの少年・青年が、自慰の爲めに其の精神を勞することあるは、疑ふべからざる事實である。

三、生殖上に及ぼす影響　自慰が性的惡癖であつて、且其の程度の昂進し易き

點は、自然人の健全なる性的生活殊に生殖上に、注意すべき關係を有するものである。

幼少の時より自慰癖あるものは、普通の性的關係を以ては、興奮も滿足も得られないやうになることが少くない。時には更に別種の性的變態、例へば同性の愛等を誘起することがある。これ等の點は、モルやエリスなどの認めるところである。

尙遺傳的の影響として、スタンレー・ホールは、自慰者の子孫は、其の精神並に身體の發達が停止し、又は早熟するの傾向あるのみてなく、甚だしきに至つては、全く繁殖力を失ふものすらあるというて居る。但しかかる結果の生ずるのは、自慰の直接の關係ではなくて、自慰者の精神や身體の不健全なることが、間接に關係して居ると觀るのが當を得て居ることが多いやうである。

四、特殊なる身體上の危害　自慰に關して普通に人の注意しないことであつて、然も比較的に其の實例に乏しくないのは、自慰の爲めに或身體部位、殊に其の殆んど全部は羞恥部に傷害の起ることである。

これは多く外科醫の報告に依つて、明かにされて居るものであつて、自慰をなすに野菜・果物・鉛筆・髮針（ピン）・硝子器殊に試驗管・蠟燭・木栓等が用ゐられ、其の爲めに局部に傷害を與へるのである。但しかくの如きは、其の性質上から觀ても、女子に多いことはいふまでもない。モルなどは、女の羞恥部に外物の發見される場合の十分の九は、自慰よりしたものであつて、然もかかる事實の最も屢見られるのは、十七歲乃至三十歲の女子であるというて居る。而して其の最も多きは髮針（ピン）であつて、これは常に女子の身邊に在るものであるからである。殊に硝子器や金屬性のものが用ゐられた爲めに、甚だしき負傷をした場合は、我邦に於ても間〻知られて居るところである。

第五　自慰癖に對する注意

かくの如くに自慰は、各種の方面に危害を伴ふものであるから、特に自慰兒に對して充分にこれが注意をなし、矯正に努むべきはいふまでもなく、未だこれに溺れざるに先んじて、これが豫防をなさねばならない。

一、一般的觀察　既に前にも述べたやうに、自慰は頗る幼少の時期より極めて廣い範圍に行はれて居るものであるから、常に一般の兒童に對して、自慰の行はれ居るや否やを觀察しなければならない。但し自慰は、殆んど常に秘密に行はれるものであるから、これが觀察は頗る容易でない。その爲めに自慰を何等かの外部的事實より、推察せんとする傾向がある。

即ち一部の論者は、自慰者の外觀的徴候として、涙ぐめる眼・動搖せる瞥・氣力なき容貌等を擧げて居る。けれどもモルなどは、かかる徴候は寧ろ神經衰弱の症狀と見るべきであつて、自慰の外觀的徴候と見るべきものではないといつて居る。卽ちかかる徴候と自慰とは、各〻共に神經衰弱症の症狀と見られる場合多く、自

慰がかかる徴候の原因とは見られないといふのである。

或は思春期の頃に達したる男兒の自慰に對しては、衣服・寢具等に汚點を有することがあるといつて、注意して居る論者もあるが、これに依つて必ずしもかかる男兒の自慰を發見されるとは限らない、のみならず女兒に對する注意事項とならぬのはいふまでもない。けれども著しき自慰の癖を有する兒童は、比較的に快活を欠き・獨居を好み・不安な態度を現すものであるから、若し兒童に於て、かかる傾向の見られた場合には、果して自慰の爲めに然るや否やを、周到な注意を以て觀察しなければならない。

二、自慰の豫防　自慰は他の癖と同じやうに、一度これが習癖となるに於ては、容易にこれを改めしめることが出來ないから、未然に防ぐことが必要である。而してこれは要するに、前に述べた自慰の原因たるべきものを避けて、自慰をなす機會を與へないことである。

其の第一に注意すべきは、兒童の先天的素質である。何となれば、遺傳的の神經病・ヒステリー等の精神病兒・又は精神薄弱兒は、他の特殊なる外的原因なさに拘らず、容易に自慰の癖に陷り易きものであるから、かかる兒童に對しては、普通の兒童以上に、この惡癖の誘因となるべき外的條件を除くべきはいふまでもなく、常に彼等の性的方面の發現狀態に就いて周密なる注意を拂ひ、身體の健全を謀り、皮膚の疾患・痔疾・便秘・尿の異常等あれば、これが治療に努め、心身の過勞を避けると共に、怠情・無爲の狀態にあらしめないやうに、弊害なきことにして然も彼等の興味を覺えるが如き作業・遊戲をなさしめ、或は寢室の燈火を明かるくして、自然の性的羞恥心より、自慰に至る機會を與へないやうにすることなどは、この種の兒童の自慰に對する豫防として、當然なすべきことである。

其の第二に注意すべきは、普通の兒童の日常生活である。前に述べたやうに、假令ローレデルやデュークなどのいふやうに、全兒童の百分中九十以上の自慰兒

はないにしても、其の極めて多數に存することは、多くの研究者の報告の一致して居るところであるから、兒童の性的生活に關して、比較的に冷淡であり無頓着である一部の人々のいふやうに、自慰を單純に一種の病的兒童に見られる現象に過ぎないとして、これを樂觀することの出來ないのはいふまでもないことである。然も自慰が、木登りの如き兒童に極めて一般的な遊戲から起り、又袴・股引等の如き普通の衣服から起ることも少くない點は、特に遺傳的に不健全な素質を有しなくとも、又何等の病的狀態にあるでなくとも、兒童の日常生活は決して等閑視されぬものである。

而して普通の兒童であれば、其の日常生活に對する相當の注意を以てして、よく一般に現れ勝ちな程度に於ける自慰を防ぎ得るのは勿論、少くも過早に現れて害の比較的に多い自慰を、遲延せしめることは確に可能なことである。要するに外的原因より誘發される自慰は、其の末梢的刺戟よりするものにせよ、將た又其の

中樞的刺戟よりするものにせよ、兒童の性的事實に對して、彼等の敎養者が殆んど無智なるか、或は無頓着なるかに因る場合が多い。從つて敎養者が、この方面に關する極めて一般的の知識と注意とを有することは、兒童の自慰を豫防する上に最も肝要なことである。

マロは、自慰に陷り易き時期の兒童の常食として、牛乳・麵麭・穀類・蛋白と燐酸の多い野菜・小量の肉類等を、適當なものというて居る。かくの如き榮養關係の注意は、自慰の豫防として比較的に間接のものではあるが、決して忽にすべきことでない。

三、自慰の矯正　これには自慰の原因を除く場合と、治療的の特別な處遇をなす場合とがある。

1　原因の排除　此の惡癖の直接の誘因となり又間接の誘因となつたものを、自慰兒の各個人に就いて研究し、先づ其の直接の誘因と見られるものを除き、漸次に間接の誘因たるものより遠ざけねばならない。但し場合に依つては、初めに自慰に導いた原因が、早晩この癖に陷るべき狀態にあつたものを、比較的に早期に發現せしめたといふに過ぎないで、それ以後にはかかる原因なくも、全く內發的に行はれる場合が少くない。必身に病的異常あつて起るものは、多くはこれである。從つてかかるものは、其の直接原因と觀られたものを除いても、安んずることは出來ない、換言せば却つてそれは間接原因と觀るべきであつて、其の心身の狀態の異常を寧ろ直接原因と觀るのが至當であることが多い。卽ちかかる自慰兒の現在に於ては、其の誘發原因は自慰を行ふ上に、殆んど關係を有して居ないのであつて、自慰の矯正には何等の效果をも有せぬのである。

けれども心身の狀態に自慰を起すが如き特殊な異常なく、全く外的の刺戟が直接の原因をなし、常にそれに因つて誘發されて居るやうな場合には、其の刺戟となるものを除いて、頗る單純に矯正の效果を擧げ得ることがある。

されば自慰の原因を排除するというても、表面の觀察のみを以て、これを全うすることは出來ない。先づ醫家の注意深き診斷に依つて、若し精神並に身體に何等特別の異常がないといふ場合に、外的の原因たるべきものを研究して、これが排除に努めるのが、適當な順序である。而して兒童の身邊に關する周到な注意を以てしても、尙よくこの惡癖の矯正されないやうな場合は、多くは上の順序を採らざるものであつて、實際上内的原因と外的原因とが、極めて密接に關係して居ることの多いに拘らず、精神並に身體の健否が、彼等の敎養者に顧慮されずにあることが少くない。

2　特殊なる治療的處遇　これは前者に對して積極的の矯正である。スタンレー・ホールは、醫家に依つて唱へられる自慰の治療的處遇は、顯著な效果を見ることは少い、寧ろ一般的の處遇をなすのが得策であるといひ、身體の運動・早起・高尙な音樂等は、何れも精神を强壯にし、この惡癖を矯正する上に效があると述べ

て居る。

一部の人は、自慰に對する慾望の起つた時に、局部に冷水を注きかけることを主張して居る。モルなども、其の效果あることを述べて居る。但しこれは頗る容易のことのやうであつて、然もこれが實行には頗る困難なものがある。卽ちこれは意志の極めて鞏固な兒童でなければ、なし得られぬことであるが、自慰の著しく昂進して居るやうなものは、意志の薄弱なのが最も普通である。且かかる方法は、年齡の長じたるものに於て、初めて望まれることであつて、幼少な兒童に向つては、殆んど强ひ得られぬ場合が少くない。

自慰兒に隱袋（ポケット）なき袴（ズボン）を穿たしめることなどは、極めて普遍のことであるが、尙强制的處遇の例として、羞恥部を蔽つてこれに觸れることの出來ないやうな革製の帶又は短衣を用ゐしめ、拳を包むが如き手袋を穿たしめ、手を縛して眠に就かしめる等のことがある。けれどもモルやエリスなどは、かかる處置も先天的素質

に因つて起つた自慰兒には、効果が見られぬというて居る。卽ち自慰兒の兒童の自慰に對する刺戟は、外部より受けて居るよりも、寧ろ內的のものであるから、假令上述のやうな機械的の强制處遇をしても、何等かの方法で自慰を行ふに至ることは屢あることである。

看視的處遇も、亦屢行はれることである。卽ち自慰兒は床に就いて後に、この惡癖をなすことが多いから、睡眠の時間を一定し、早起をなさしめ、看視者は常に就床せる兒童より眼を離すことなく、兩手を掛蒲團の上に出さしめ置き、若し其の手が掛蒲團の中へ入れられるやうな時には、直に起さしめるのである。而してかかる處遇を、二三週間繼續するに於ては、夜間の自慰を除くことが出來る。只かかる看視者を得るのが困難であるが、これも二人の看視者を選み、交代に看視せしむれば差支ない。これはフェレの主唱するところの處遇法である。

3 矯正の難易　總べての惡癖に於けると同じく、自慰の矯正は決して容易のものではない、殊にこれが秘密の間に又夜間就床中に行はれることは、自然敎養者の注意を忘らしめる所以であつて、且自慰が動もすれば等閑視され勝ちとなり、矯正の途が講ぜられずに居る所以である。

けれども自慰の中には、其の性質に因つて、矯正の比較的に容易なものと然らざるものとがある。其の內的原因よりするものは、外的原因よりするものよりも、矯正の困難なのはいふまでもなく、殊に前者は普通の敎師・父兄等の一般的處遇では、其の效果が見られないて、全く醫家其の他の特殊的處遇を必要とするから、多くの場合に矯正が失敗し、爲めに頑强な癖として觀られることがある。

これに反し常に特別な外的刺戟を受けて居ることが、自慰をなす主たる原因なる場合には、其の原因の排除に依つて、豫想外に容易にこれを矯正し得られることが少くない。

かくて自慰の矯正の難易は、要するに其の原因の如何に因るのであるから、こ

れが矯正の第一着として、主たる原因の何れにありやを、周到なる注意を以て觀察しなければならない。

四、性的教育　これが自慰の豫防にも、亦自慰の矯正にも必要なものたることは、多くの學者の相一致して居るところである。けれどもこれを如何なる方法に依つて行ふか、又如何なる時期に於てするを最も適當とするかが、常に問題となるのであつて、學者並に實際家の間に、論爭の絶えないところである。かくて今日に於てはこの問題は、兒童教育の特殊にして重要なる一方面として、獨立に研究されるまでに進んで來たのである。

而してこれを廣義に解し、前述せる自慰の豫防並に矯正をも、性的教育の一部として論ぜられることがある、けれども時には兒童の性的生活に伴ふ各種の現象に關する説明を與へて、健全なる性的發達をなさしめんとすることもある。

1　間接方法　精神並に身體の健全を保たしめることの必要なのはいふまでもないが、殊に道德的思想の發達に努め、衞生思想を養成し、鞏固なる意志の訓練を得せしめることは、性的教育の間接の方法として、最も重んずべきことである。

次には尚進んで一般の生物學的論據より、植物界並に動物界に於ける生殖現象を、努めて間接的・比喩的に説明し、以て人の性的生活の最も注意すべきものなることを、知らしめるのである。これは性的教育を主唱する一部の論者の採る方法であつて、例へば兒童を野外に伴ひ、咲き揃へる草木の花よりして、漸次に性的生活の意味を理解せしめんとし、或はこの種の讀み物を編纂して、特殊の教科書とせんとするが如きそれである。實際上獨逸などに於ては、この目的を以て著はされた兒童用の小册子が現れて居る。

2　直接方法　これは前者と異り、特別な比喩を用ゐることなく、直に性的生活の如何なるものなりやを説明するものである、從つてこの方法は一般に相當の年齡に達した兒童に對してのみ行はるべきである。

但しかかる說明者は何人か適當であるかといふに、これは頗る注意すべき點であつて、或人は思春期に接近したる兒童には、其の兩親か敎師が適當であつて、女兒の場合には結婚せる姉でもよいとされて居る。けれども說明者の人格に關する注意が最も肝要である、卽ち兒童に依つて輕侮されるが如き人は、この種の說明者として不適當といはねばならない。從つて若しかかる說明をなさんとする場合には、說明者の選擇を怠つてはならない。尤も今日の多くの兩親は、かかる事實の必要を度外視せることが多いから、兒童を敎育するに先立ちて、相當の醫師又は敎師が、彼等の敎養者に向つて說明すべきである。

學校兒童に對して性的生活の說明をなすのは、補習學校・專門學校・中學校等を卒業する時に行ふが適當であるといふ論者がある。カール・グラースマンなどは、上の如き卒業生には講演を以て性的生活の危險を說明し、殊に昔てハルレに於て行はれたやうに、初めに兩親に對して說明し、次に卒業生に說明するのは、最も

良い方法であるといひ、又一部の論者のいふやうに、この種の敎育を他の課程のやうに、强制的に說明するのは問題であるという居る。而してかかる說明は、寧ろ個人的に兒童の性質に應じて行ふを適當とする場合が少くない、何となれば多數の兒童に向つて一時に行ふ時は、性的發達の各〻同じからざるより、一部の兒童には却つてそれが爲めに不安・好奇心・疑惑等を起し、自慰の誘因となることが稀でない。この點が、直接に行はれる性的敎育の危ぶまれ、又最も困難とされるところであつて、其の必要を認められつゝ、然もこれを敢て行ふ敎育者の殆んど ないのは、要するにこれが爲めてある。

第十三章　遺尿

第一　概說

遺尿とは、睡眠中に排尿することであつて、一般に特別な兒童に見られる一つの主な惡癖とされて居る。けれども遺尿に對しては、兒童に有り勝ちの現象であるからというて、特別にこれに深き注意の拂はれてない場合もある、或は又單純に偶發的の原因から起つた遺尿であるのに、重き惡性の體質若しくは疾病を有する徴候であると速斷して、養育者の心痛と狼狽とを招くこともあるのである。

元來體質の健全な兒童であつて、養育上の注意も充分てある場合には、晝間見られる不隨意の排尿は、大凡生後一年以內に於て終るものであるが、夜間見る不隨意の排尿は、大凡生後二年位で終るものである。かかる時期に於ける不隨意の排尿は、普通にこれを遺尿とはいはない、一般に遺尿と呼んで人の注意するの

は、上の生後二年以後に至つても、尙不隨意の排尿のある場合であつて、殊に少年期に入つて後に見られるやうなものは、全く一つの惡癖として、兒童の敎育者や養育者の研究と注意とを促して居る。

而して遺尿は、間食の惡習や盜みの惡習と異り、睡眠中に現れるものであるから、兒童並に其の周圍にあるものの、これに對する注意と矯正の努力とに、特殊な方面のあるはいふまでもない。且普通に惡癖といはれるものは、殆んど皆覺醒中に見られ意識を伴ひ、時には幾分の努力を用ゐて行はれることがあるのに、遺尿は殆んど常にこれと反對せる關係にあるものである。從つて一部の論者は、遺尿を間食や嘘言や盜みや潔癖などと同樣に取扱つて、これを惡癖として論ずるのは、當を得て居ないというて居る。けれども遺尿にも種々な原因から生ずるものがあつて、中には他の惡癖と特別に區分して考察する必要のないのみでなく、全く一つの習癖として觀てよい場合もあるのである。

次に遺尿は如何なる程度に於て起るものであるか。これは固より各の個人に依つて異り、或兒童には極めて特殊な事情のあつた時にのみ稀に起り、或兒童は外觀上特殊な事情の見られないのに、一週に一回起り、又は一ケ月に二三回起り、決して一定したものではない。而して多くの兒童には、遺尿は一夜に一回のみであるのに、稀には一夜に二回も見られることがある。

遺尿の起り易い時期にも、亦一定の標準はなく、多くは思春期の頃に達すれば、假令この癖のあつたものにも、見られなくなるものであるが、時にはそれ以後に於ても尙見られる場合が間〻ある。けれども遺尿は、一般に兒童期の初期に於ける現象と觀てよいのである。

第二　遺尿の原因

遺尿を一つの惡癖とし、これに對する處遇を研究するには、先づこれが原因に

注意しなければならない。然からば遺尿の原因は何か、今これを大別して、一に、病理的原因によるものと、二に、教養上の不完全によるものと、三に、其の他特殊の事情によるものとに區別して觀察することが出來る。

一、病理的原因　從來兒童の遺尿は、膀胱の神經機關並に筋肉機關に關する機能性の疾病であると考へられた。

然るにダムスキーなどは、癲癇・ポット氏病(結核性脊椎炎の爲めに背部脊柱の突出する病)・脊柱披裂・膀胱内の腫瘍又は結石・尿道上下破裂(先天性の畸形)・包皮・蛋白尿を伴ふ病・尿に尿酸又は燐酸鹽の多量を含む時・直腸の茸腫・扁桃腺肥大・鼻咽腔の腺增殖等が、反射的に兒童の遺尿を起すことありといひ、又これ等の病狀の認められないで遺尿のあるのは、特發性のものであつて、其の大部分は既に膀胱が炎性若しくは黴菌性の疾病に罹つたことがあるのか、或は其の疾病が潛伏する時に見られるのであるというて居る。

ザイツは、一九一一年にミュンヘンに開かれた幼年保護教育會議で、遺尿は既に以前より存在して居つたものが、往々其の發育期に至つて甚だしく顯著となるもので、それが局所的疾患の徵候たることは少く、多くは神經性又は精神的異常と共に發生するもののやうである、卽ちヒステリーや癲癇や精神薄弱が其の誘因たるものである、但しこれ等に共通した病狀は見られないやうであると、述べて居る。

スターデルマンは、次のやうに述べて居る。遺尿を有する兒童には、膀胱の不隨的排泄を起さしめるやうな情緒的の夢を有することが多い、且又かかる兒童に、精神的並に肉體的に低格なものの多いことは、かかる低格者を主として收容せる教養所又は感化院の兒童の中、百分の五十乃至それ以上に、遺尿兒のあるを以ても知ることが出來る。但し著明の精神薄弱兒を收容しない普通の保護教育及び强制教育をなせる教養所に就いて見れば、遺尿兒の數は遙に少くて、多くは百

分中十内外であつて、百分中二十五を最多となして居る。固よりこれ等の中には、精神の健全のものも幾分含まれて居るであらうが、多くは身體上の榮養狀態に缺陷を有して居るものである。

我邦に於ける主な感化院に收容された不良少年二千三百九十五名中、三百二十五名即ち約百分中十三・五は、遺尿をなす兒童であつたと報告されて居る。

要するに生後に於ける敎養に、何等特別の缺陷もなく、又一時的の疾病もないのに、遺尿の癖があつて、相當の年齡に達しても矯正の困難なものには、先天性の病的原因、殊に癲癇・ヒステリー等の見られることが多い。又不良少年に關する遺尿を調査せる人は、多く身體上の榮養不良に注意して居る。或は又容易に疲勞し易き所謂無力性の兒童には、膀胱の衰弱せる結果、大人になつても遺尿するものがある。

元來遺尿は、變質徵候の一とされて居ること多く、他の身體上の變質徵候と共

存せる場合を擧げて居る人がある。卽ち遺尿の癖のあつた兵士の身體を檢査して見たのに、指の第二關節まで水掻の如き膜があつた、又腰の邊をエッキス光線で見たのに、薦骨の發達が不完全で、先きが大きく破裂して居つた。但しかかる身體的の變質徵候は、遺尿と相關的に意味があるといふよりも、寧ろこの種の徵候あるものには、心身上に何等かの異常を有すること多く、その爲めに一方に遺尿を起さしめて居ると觀るのが至當である。

二、敎養上の不完全　これは總べての惡癖の發生に關係あることであつて、其の主たる點は、意志作用の敎養が充分でない爲めに、遺尿の傾向を生ずる場合である。

1　意志作用の不健全　精神薄弱又は精神低格のものは、生れながらに意志作用の發達の不完全なものであつて、假令普通の素質を有するものに對しては充分な程度の敎養を施しても、これを一般兒童の程度に高めることは出來ない。

されば若しかかる特殊兒童の敎養者が、彼等に對して努力を要する敎養をなし難き事情の下にある場合には、自然意志は不健全のままに止まり、其の爲めに睡眠中の如き精神活動が一部分休止せる時は、排尿に伴ふ尿道括約筋の反射的開張作用の制御、並に膀胱收縮筋の自働的監督をすることが出來ないで、遺尿するに至るのである。

これに反して心身に缺陷のないものであれば、普通の敎養に依つて、上述の如き反射作用を禁止する丈けの意志作用を、發達せしめることは極めて容易である。けれども若し其の敎養が頗る不完全なものであつて、例へば乳兒の頃より、排尿・排糞等に對する取扱が甚だしく無頓着であつた爲めに、この方面に向つての機能的發達が漸次に遲鈍となり、遂には生來性に異常あるもののやうに、往々遺尿をなすに至ることがある。

2　尿の蓄積　これには外部よりするものと、自らよりするものとがある。外

部よりするものは、兒童の四圍にある父母・敎師其の他が、强制的に又は不注意に、長時間排尿の時機を與へないで居る場合で、自らよりするものは、遊戲又は聽話等に熱中し・夜中恐怖に襲はれる等のことから、故らに又已むを得ずに排尿の時機を遲らす場合である。何れもこれを度々反覆して常習性となるに於ては、膀胱ヶ常態以上に擴張せしめ、其の收縮筋は弱くなり、神經は刺戟性を衰弱し、遂に睡眠中に於ける禁止作用が不完全となり、遺尿の癖を得るに至ることがある。

而して實際上、尿の蓄積なる事實は、極めて意味なき時に於ても、强制されて居ることが稀でない、殊にかかることは、幼少なるものに對する程、容易に不良な影響を與へるものである。

三、遺尿を起す特殊な條件　これには種々注意すべきことがあるが、今其の主要なるものに就いて述ぶれば、

1　睡眠の深さ　遺尿は睡眠中に起ることであるから、それが睡眠の深さに密

接の關係を有するのは當然である。元來吾人の内的刺戟に對する反射作用は、覺醒中には制御され抑壓されて居ることが少くないが、睡眠に入ると共に、これ等の制御抑壓が減退して、反射作用が一時昂進して來る。けれども俗にいふ寢入り込みて熟睡に達した時には、この反射作用も亦漸次に減退し、就眠後大凡一時間で殆んど其の活動は見られなくなる。卽ちこの時には、膀胱收縮筋の自働的監督と、尿道括約筋の制御とが、殆んどなくなるから、最も多く遺尿が起り易い。

但し睡眠の深くない時には、排尿に對する一種の緊迫の感から、特殊な夢を起し、其の夢が原因をなして遺尿をすることが少くない。例へば便所を搜し歩き、漸くにしてそれを見つけたと夢見て安心して排尿し、或は友達の放尿せるを夢見て自らも排尿するが如きはそれである。かの就眠後數時間を經て遺尿し、又は拂曉に遺尿するものには、この種のものが少くない。尤もかかる夢が原因をなせる場合にも、全く偶發的に起つて常には更にこの傾向のないものと、習癖として何

時も夢から導かれて遺尿の行はれるものとあるのである。

2　精神上の感動　普通以上の精神の感動や興奮は、一般に吾人の排尿の量を增すものである。これは兒童が、長時間泣いて居る時や、試驗などで心配して居る時などに、明かに見られる現象であつて、大人に於てもよく經驗されることである。かくて幼少の兒童に於ける晝間の遺尿が、彼等の驚愕・苦慮・恐怖・喜悅等に因つて起つて居ることが少くない。若し兒童が、睡眠中これ等の感動を伴ふべき夢を見る時には、これが爲めに覺醒時と同じやうに排尿の量を增し、間接に遺尿を起さしめることが往々ある。稍長じたる兒童が、遺尿の夜に感動性の夢を見たと告白することは稀でない。

兒童の遺尿が、往々小學校へ入學してから初まることがある。かかるものには、固より種々な原因もあるのであらうが、其の大多數は從來の生活狀態と全く異つた學校生活が、課業に對し敎師に對し交友に對して、少からぬ精神上の抑壓を經

驗して疲勞し、其の他身體上にも疲勞を起すことの多い爲めに、排尿の量を過多ならしめ、率いて遺尿を誘發するのである。

3　飮食物　これは習癖性の遺尿と、直接の關係あるものではないが、習癖性のものに對する間接原因として、又偶發性のものに對する一時的の誘因として觀られることがある。殊に就眠前に於ける飮食に、水分の多きものを攝取したることが、其の主なる條件となるのである。

其の他肉食と菜食とに於ては、後者か前者よりも遺尿癖者に適當して居るといふ人あるも、肉食が積極的に兒童の遺尿を起す一條件たりとは、未だ斷定されないのである。

4　天候・氣溫　これが吾人の生理活動に密接な關係にあることはいふまでもなく、殊に寒冷の候に排尿多くして、炎熱の候に少きことは、發汗と相關係して吾人の經驗するところである。かくて寒冷が、遺尿の一誘因たることは、爭はれ

ない事實である。次に天候に關しては、晴天にして氣溫の低き時と、天候の變化する時とに遺尿多く、曇天又は雨天にして氣溫の高き時には、遺尿少しといはれて居る。

冬季が夏季よりも遺尿を多からしめることは、次の事實で明かである。獨逸のソーベルンの敎養所では、夏には遺尿兒が全數に對し百分中二・二であるのに、冬には六・六と增加して三倍であつた。又フィヒテンハインの敎養所に於ても、實數は擧げて居ないが、冬に多いと報告して居る。其の他此の種の報告は、兒童を取扱つて居る多くの人々に依つて、常に示されて居る。

尤もこれには、夜寒の離床を嫌厭する爲めに、自然寒き季節に遺尿を多からしめることも、明かに關係して居る。

第三　遺尿に對する注意

遺尿が不良なものたることはいふまでもないが、單純にこれを兒童の惡意より

出でたる行爲と同じやうに取扱ふことは、最も謹しむべきことである。卽ち習癖性のものもあれは、偶發性のものもあつて、殊に時には敎養者の不注意の結果なることも多いから、これを以て直に習癖者に對するやうな態度は避けねばならない。何れにせよ他の多くの習癖に對すると同じやうに、周到な注意を以て臨まねばならない。

一、遺尿の原因の觀察　前節に述べたやうに、遺尿の原因には色々なものがあるから、遺尿兒に對しては、先づ其の原因が病理的であるか否かを知る爲めに、醫師の診斷を乞ふことが必要である。何となれば、遺尿兒には身體上に於て注意すべき特徵、例へは榮養不良等を有し、それが間接に遺尿の原因となつて居ることが多いのみでなく、然も時には其の身體上の注意すべき點が、比較的に單純な處遇に依つて、これを除き若しくは輕減せしめ得る場合があるからである。これに反して先天的の不良な素質、例へは精神薄弱等が原因をなして居る場合に、若し

これを普通の偶發性のもの若しくは治療の容易なるものと、同樣に處遇するに於ては、其の效果の得られないのはいふまでもないことである。

二、醫學的處遇　これは吾人のここに論ずべき範圍ではないが、少くとも遺尿の原因に、身體上の異常を認める以上は、注意しなければならぬものである。而して事實上、醫學的處遇に依つて、遺尿の一時的若しくは永續的に除かれた場合が、種々報告されて居る。

例へば、癲癇が原因で遺尿の癖あるものに、腦の活動を沈靜ならしむる藥劑を與へて、一時これを止めしめ、或は鼻腔の腺增殖症と遺尿と同時に見られる患者に、鼻にコカインを注射して、一時的ではあるが、其の夜に遺尿を防ぎ得たことや、或はラヂィウムの放射を、鷹骨破裂部に每回一時間宛加へ、平均十二回で輕症のものは勿論重症のものも、輕快となり若しくは全治したといふ場合もあるのである。醫師指導の下に、電氣療法を行ふことも、初めには頗る效果多きも、暫

時にして其の效果失はるともいはれて居る。これ等は特殊な例に過ぎないが、遺尿兒は普通に榮養不良のものが多いから、醫學的方面から榮養上に注意して、身體並に精神の健康を謀ることは、一般的處遇として最もよいことである。

三、一般的處遇　これは必ずしも醫學的處遇と區別すべきものではないが、便宜上項目を改めて說明するのである。

1　刺戟性飮食物の廢止　遺尿癖のある兒童は、身體も精神も頗る薄弱なものが多いから、日常の飮食物に於ても、なるべく刺戟性のものを與へないのがよい。例へば茶・珈琲等の嗜好飮用物、胡椒・唐辛子・辛子・生薑等の嗜好調味料は、何れも兒童の神經を刺戟するものであるから、特に遺尿兒にはこれを遠ざけることが肝要である。然るにかかる嗜好物が、この種の兒童に依つて、往々嗜好されることがある。

2　普通の飮食物の注意　常食として兒童の身體を健全ならしめるものを與ふ

べきは勿論であるが、肉食を多く與へて菜食の不充分なるものには、往々便秘が見られるが、これは排尿の量を少くするには不適當な狀態である、これに反して菜食を多からしめる時には、便通がよろしくなり、排尿の量を少からしめるに效があるといふ論者がある。而して實際上、便通をよからしめる爲めに、豆腐の殼の如きものを夕食に與へて、遺尿の傾向を少からしめた例がある。

水分の多い飮食物が、遺尿兒に不適當なことは前にも述べたが、夕食に際しては假令牛乳の如き榮養物であつても、これを避けしめた方がよい。例へば榮養不良で、牛乳を與へる必要のあるやうな場合には、なるべくこれを午前中に與へて、午後に與へないやうな注意なども必要である。

3　精神の感動を避けること　これは原因のところで述べたやうに、遺尿兒には極めて大切なことである。而して普通に見られる感動と共に注意すべきは、かかる兒童に對する叱責である。叱責はいふまでもなく、兒童の精神に著しい感動

を與へるもので、殊に遺尿の如き一般に人の羞恥を感ずることで、自らは無意識になしたやうなことに關して叱責されることは、彼等の頗る苦痛とするところである。尤も精神發達の遲鈍なるものに於ては、かかる叱責が殆んど何等の刺戟とならぬことがないではない。

叱責より受けた感動は、彼等の醒覺中に其の精神を刺戟すると共に、睡眠中にまで影響して、感動的の惡夢を經驗せしめ、その爲めに排尿の量を多からしめ、却つて遺尿の誘因を與へたと同一の結果になることがある。然るに遺尿に對する叱責は、往々頗る極端な程度に於て行はれ、遺尿兒の精神を刺戟することの極めて著しいことが少くない。

のみならず遺尿兒に對しては、讀物・觀物を初めとして、日常の談話に於ても、彼等の精神を甚だしく感動せしめるやうなものを避けねばならない。殊に睡眠前に、恐ろしきものを見せ、心痛なことを命じ、或は驚かしめなどすることは、最

も注意すべきことである。但し實際上彼等には、この種の感動性の內容を有する雜誌・談話・活動寫眞等を好む傾向のものが少くない。

4　就眠の注意事項　上述の色々な條件の外に、就眠前に特に注意すべきことがある、其の主なるものは次の數件である。

一は、飮食と就眠との間に、相當な時間を與へることであつて、遺尿兒には飮食後直に就眠せしめるのは適當でない、大凡一時間乃至二三時間を隔つべきである。

二は、就眠前に適度な身體の運動をなさしめることで、これは遺尿兒に對しく行ふに於て、其の效果が見られ易い。

三は、就眠前に腰部の冷水浴又は冷水摩擦をなさしめることで、これは遺尿兒に實施して相當の效果が得られて居るやうである。これを施す時間の長さは、夏と冬とに於て幾分相違するのは當然で、冷水浴は冬ならは大凡一分間、夏ならば

大凡三分間位行ひ、よく乾いた布で水分を取り、摩擦して就眠せしめ、又冷水摩擦は大凡二三分間行へばよいのである。

四に、寢具の中、敷蒲團には比較的に硬いものを用ひ、掛蒲團には比較的に輕くて暖かなものを用ゐるのは、これに反した方法よりも遺尿を防ぎ又は排尿の時を遲くせしめる上に效果があるやうてある。殊に寒冷の候には、暖かき寢具を與へることか肝要である。

五に、腰を低くし又は仰臥するのは、遺尿の間接の誘因とされて居る。これは膀胱と其の排尿口との位置に關係することで、腰を高くして横臥すれば、膀胱竝に其の排尿口に對する尿蓄積の刺戟が比較的に遲く、前の場合では排尿の刺戟となる程度に、達しないといふことがある。卽ち臥態に依つて、膀胱内に於て尿の保たれる狀態が異り、又外部よりの壓迫關係も相違して來るから、蓄積した尿の分量は同じてあつても、それが

直接には膀胱收縮筋に、間接には尿道括約筋に刺戟を與へる程度には、幾分の相違を生ずるのである。

この事實から、遺尿兒の處遇に就いて、特殊な寢具が考案されて居る。尤も遺尿をなすか如き時期の兒童は、正しき狀態を保つて眠むることが少いから、多くは彼等の身體に、腰を高くし横臥せしめるに適當なものを縛りつけて置くのである。例へば腰を高くせしめるには、座蒲團樣のものを縛りつけ、横臥せしめるには、仰臥せんとしても出來ないやうに、腰の後に硬き球樣のものを縛りつけて置くのである。獨逸の或敎養所では、遺尿兒の背部に、手拳大の石一個を固定せしめ、夜中放尿せんとして背位に轉ずるや、石に依る疼痛に因つて覺醒せしめるやうにして居る。かかる一種の寢具を以て、遺尿兒の排尿の時を相應に遲くせしめ、就眠後直に遺尿するか如き場合を、避け得ることが少くない。

六に、時を見謀つて遺尿兒を起し、排尿せしめることである。これは最も普通

に行はれて居ることであつて、遺尿の矯正の一つの手段である、少しく注意すれば、各〻の遺尿兒には大凡遺尿をする時が定まつて居るから、其の時の至るに先立つて起するのである。けれども其の都度眼を覺ますことは肝要なことで、若し夢を見て居るやうな狀態のままで、廁へ連れ行き排尿せしめるに於ては、遺尿兒の精神上では遺尿したのと大なる相違はない、從つて故らに起して排尿せしめた效はない、これ其の注意すべき點である。

四、矯正の難易　遺尿に關する處遇として、實際上幾分の效果ありと認められるのは、大要右に述べたのが主なものである。但し先天性の不良な素質、例へはヒステリーや癲癇や低能に因るものは、殆んどこれが矯正は困難である、只一時的に中止せしめ、若しくは其の度數を幾分減ずる位のものである。

けれども若し腎臟の故障等から燐酸鹽の多量を含む尿を排泄し、その爲めに遺尿が起るやうな場合には、其の原因たる腎臟の治療に依つて、これを全治し得る

のはいふまでもない。或は若し鼻腔の腺增殖から遺尿が起つたと觀られる時に、鼻腔の其の故障が除かれたならば、これ又當然に全治され得るものである。要するにこれ等のものは、矯正といはんよりは、寧ろ治療といふべき性質のものである。

次に偶發性又は一時性の遺尿が、前者の先天性又は病理性のものに比較して、矯正され易きはいふまでなく、殊に夕食に對する不注意や心身の過勞等が、敎養者に依つて忽にされて居つた場合のものは、只それ等の原因を知ることに依つて、容易にこれを矯正し得るものである。

けれども乳兒期・幼兒期に於て、尿の注意の殆んと顧られて居なかつた貧窮な家庭の兒童などは、先天性の素質に病理的のところはなくても、排尿に對する意志の訓練が不充分であるから、膀胱收縮筋や尿道括約筋の制御が著しく遲鈍となつて、矯正し難い程度の遺尿癖を有するのである。從つてかかる頑强な習癖性のものと、前の先天的素質に因るものとを區別するのは頗る容易でない、これには其

の幼時に於ける生育狀態並に其の遺傳的關係を、精細に觀察して參考にしなければならない。

五、寢室の衞生　これは間接的方法ではあるが、又頗る注意すべきものである。卽ち襯衣・寢具類の濕濡、寢室內の空氣の不良等の如き、不快なる非衞生的事實を除く爲め、襯衣や寢具を屢〻交換し、又は日光に當てて乾燥せしめ、寢室の通氣を完全ならしめ、總べて淸潔を尊ばしめるやうに努めねばならない。

六、奬勵　これも年少の兒童に向つては、最も效果の見られ得る一つの方法である。

例へば、兒童に對して其の自ら欲せざる惡癖に慰撫と容赦とを與へ、且この惡癖の必ず治療さるべきことを約して勵まし、其の意志力を强固ならしめることが、肝要である。又時には、特別の賞與や特典を與へ、或は遺尿兒のみを收容してある寢室より、健全兒の共同寢室へ轉入せんことを望ましめる等のことは、兒童の

尿意に際して覺醒し起床せんとする意志を强める上に、著しく效果の見られることである。

これに反して叱責・體罰等を加へ、若しくは他の兒童をして嘲弄せしめるか如きことは、却つて矯正上效果少きものである。これ等は何れも獨逸の多くの敎養所に於て實驗した結果に基いたものである。

七、遺尿に伴ふ間接の注意事項　甚だしい低能者を除いては、遺尿は一般に恥づべきことと考へられ、又寢具に對する不潔を以て咎められることは、遺尿兒をして往々注意すべき行爲に至らしめることがある。

例へば、遺尿に因る叱責を恐れ、家出して浮浪兒となり、又は遺尿を他人の面前にて劇しく叱責されたのを遺恨に思つた雇人が、雇主の家へ放火するが如きことは、間〻吾人の耳にするところである。其の他多人數共同の生活をなせる工場・又は學校等の寄宿舍に於て、遺尿から注意すべき特殊の兒童問題を起すことも稀

ではない。

結末

以上說明した兒童の惡癖は、緒言に於て述べたやうに、兒童の將來の生活に於て、不幸なる境遇を得せしめ、又は社會の人々に對して、危害を加ふるが如き種類の中、一般に敎養者に依つて注意されて居る主なるもののみを選んで、概略の說明を下したに過ぎない。而して本著に擧げた各種の惡癖は、比較的に其の原因も複雜なものであつて、多くはこれが處遇の困難なもので且永續性のものとなり易いものである。

固よりこの外、敎養者に依つて注意されて居る惡癖は極めて多い。けれどもそれ等の多くは、原因の比較的に單純なものか、又は其の現象の比較的に一時性のものか、或は又只に兒童の先天的の性質として見られるものに過ぎない。

例へは浪費の癖の如きは、間〻誇大妄想より購買心を異常に昂進せしめ、又は虛

衆心より起さしめることもあるが、多くは買食ひ、賭け事等の他の惡癖から附帶的に起り、若しくは幼少の頃よりの習慣に因るものである。從つて其の原因は割合に單純であつて、誇大妄想等の病的原因からするもの以外は、寧ろこれが原因たる他の惡癖に對する處遇を以て對すべきである。その他の偶發的の浪費の如きは、比較的に處遇し易きものである。

或は兒童によく見られる泣く癖の如きは、一には一般に泣くこと多きもの、二には夜泣くものと、三には朝眼覺めに際して泣くもの等があつて、其の原因も必ずしも一ではない。卽ち一般に泣き易きものは、心身上に何等かの故障あるか、稟性臆病で卑怯であるか、教養が寬大に失して居る爲めに或慾望を滿足せしめん手段たることなどが原因となり、又夜泣くものは、蚓蟲の爲めか、日中其の精神を刺戟することの甚だしい場合に富んで居ることなどが原因となり、又朝眼覺めに泣くものは、夜永起きする爲めに睡眠不足から氣分あしきか、お菓子などを貰

はんが爲めに起ることもあり、或は自分が最後に眼覺めた時にのみ泣いて、他の兄弟などより早く起きたる時には泣かないといふやうな優勝慾が原因して居ることもある。而して泣く癖は、教養者に取つては頗る煩しく取扱はれるものであつて、兒童の惡癖の主なものとされて居ることが多い。けれどもかかる傾向は、少年期に入れは大抵は見られなくなるもので、兒童自らの生活からいうても、又周圍のものからいうても、上述の多くの癖とは、幾分其の趣を異にしたものである。

或は又寢呆ける癖の如きも、兒童には往々見られるものである。これは日中强く精神を勞したことあるか、過食したるか、特殊な夢を見たるかに因ることが多く、其の最も甚だしいものは、癲癇性の病的素質を有するものに於て見られるのが普通である。而して病的素質に因るものは、これを全治することが困難で、夢遊中に多少危險な行爲に至ることもあるが、それ以外のものは相當の年齡に達すれば見られなくなるものであり、且他に對して特に危害を加ふるやうなことは殆

んどないというてよい。

其の他、單に病的原因から起るもの、例へば蛔蟲などの爲めに、鼻を擦つたり穿つたりする癖を生じ、又稟性や教養上の失敗から起るもの、例へば笑い易い癖や・怒り易い癖や・執拗な癖や・猥猥な癖や・虚榮な癖や・嫉妬の癖や・猜忌の癖や・頑迷な癖などを見ることがあつて、常に兒童の觀察者に依つて注意されて居る。これ等も兒童の生活には、頗る關係の深いものであるが、然もこれを一般に惡癖とされて居るものに比すれば、其の性質や原因は割合に簡單であつて、殊に稟性や教養上の失敗から起つた上のものの如きは、只にこれを兒童の一つの性質と觀て、癖としては取扱はれて居ないことが少くない。若しかかるものをも癖として論ずるに於ては、兒童の個性の特徴をなす多くのものは、何れも一つの癖として研究すべきものである。

これを要するに兒童に見られる惡癖には、極めて様々なものがあるが、初めに

述べたやうな立脚地から、注意深き研究と處遇とを要する比較的に性質の複雜な惡癖は、大凡本著に於て述べた位のものである。

元來兒童の惡癖は、教養者に注意されて居ることの多いに拘らず、これか處遇に關しては、頗る無頓着な態度の取られて居ることの少くないものである。これは畢竟惡癖の由つて來るところが複雜であつて、如何なる處遇を以てせば、それが適當であるやの理解されて居ないことが多いと共に、教養者に各方面の餘裕なき爲めに、兒童の生活に對して親切な周密な觀察が加へられないで、間〻絶望的態度が先入して居ることが多いからである。かくて兒童の惡癖の處遇に最も肝要な條件たる、其の原因が病理的のものなり否やの點すら、全く顧慮されて居ないことが決して稀ではないのである。

兒童は其の兩親の鏡であるとは、頗る穿てる言である。兒童に現はれる惡癖が、

遺傳的に兩親の癖を受け繼ぎ、若しくは兩親の癖を模倣せる場合は極めて多い、されば兒童の惡癖に對するに先立つて、先づ敎養者自らを顧ることか必要である。兒童の癖を、恰も其の兒童に特有なものであるかのやうに思惟して、甚だしきはこれを以て不良兒となし別物扱ひをなし、而して何んぞ知らん其の主たる原因の自己にあるか如きことは、兒童の敎養上に於ける矛盾した滑稽事といふべきのみならず、兒童に對して甚だ申譯なき次第といはねばならない。

而して兒童の惡癖等を問題として云々する敎養者に於て、往々自己の性質から兒童の惡癖矯正に性急に失し、其の原因等を究めるの餘裕なく、只一途にこれを外部より抑壓せんとして、其の內的衝動の如何なる點に存するや等の全く等閑視されて居ることや、或は一方に於てこれを矯正せんとするに拘らず、自己を顧ることの足らざる爲めに、他方に於てこれを誘發するか如き態度や行爲を反復して、惡癖の模範を示して居るやうなことも少くはない。

且又兒童の惡癖が、彼等の惡性に因るとされて居ることが往々ある。されども各の章に於て述べたやうに、惡癖が遺傳的又は一時的の病理的原因に基くことも多く、從つて普通の狹き意味よりする敎育上の問題ではなくて、寧ろ廣き意味よりする敎育、殊に敎育病理的の處遇に俟たねばならぬことが頗る多い。この點は惡癖兒に對するものの最も心すべきことであつて、一般の訓誡・叱責・賞讃等が、殆んど其の意味をなさないやうな場合もあるのである。

以上は、何れも本著に於て屢〻述べた點であるが、兒童の惡癖を觀察し、これを處遇せんとするに際しては、最も注意すへきことであるから、吾人は本著の結末に於て更に再言したのである。

——(終)——

索引

注意。文字の配列は正音によらずに發音の順にした。例へば幼年はエウネンでア行に入るべきであるが、ヨウネンとしてヤ行に入れ、早熟はサウジユクでサ行の初めに置くべきであるが、ソウジユクとしてサ行のソの部に置いた。

（ア）行

愛家心 三二
惡夢 四六二
惡戯 八七・四一六
　動物に對する— 三三六
惡癖の意味 四
朝寢 四〇五・四〇九 四一〇
暗示感性 一五四
行燈袴 四〇八
家出 二九
イエローリース 四二三
醫學的處遇 四五九
意氣阻喪 一五九
意志薄弱 一〇八
異食癖 二三二・二三四・二三六
異常な性格 二七八
慰籍 三四
移住本能 一四
遺傳的素質 二四八・二七七
詐 一三五
陰鬱 三八六
　—な表情 二五〇
陰氣な室 四一七
因循 一五九・二〇五・三八二
飲食物 四五六
　刺戟性— 四六〇
遺尿 四四五
　—の原因 四四七
　—に對する注意 四五七
ウエスト 四二三
ヴント 四〇
嬰兒期 二・四
衛生思想 二五七・二七一・二八五・二九七
榮養狀態 四〇五
榮養本養 六一
演劇 四一四
怨恨 四七・九〇・三〇八・三一三・三一七
エンミングハウス 四二二
エリス 三九〇・三九三・三九九・四〇六・四
　二八
エルブ 四二四
横領 三一
お伽噺 三五
玩具 二〇八
音樂 四三六

（カ）行

諧謔 一六七・三七五・三八四
解剖圖 四一三
カウフマン 三六・四二
學校生活 四五五
學校休み 一五・二九
隔世遺傳 一一・一〇七・三二一・三四四
賭け事 一二八・一九一
　—の原因 一九三
　—に對する注意 二〇〇
　—に對する興味 二〇〇
過食 二一六・四七三
過食症 二一八
家畜の飼養 三五四
家庭外の生活 二三

家庭生活の不快 一九
家庭の職業 一四九
買食ひ 二三・三六・二四一
家風 一三三
感動 四五・四六一
感情發揚 四〇一
間食 二八・二一
—の大則 二一三
普通に間食されるものをとる場合 二一六
普通間食とされぬものをとる場合 二一九
食ふ場所 二一四
—の度數 二三一
—の分量 二三四
—に對する注意 二三七
看視的處遇 四三八
頑迷 三五六・三八三
花柳界 四二〇
カール・グラースマン 四四二
記憶方 一七六・四二六
記憶の不健全 一七六
—の去就 一六六
—の錯誤 一七七
—の不明瞭 一七七
氣温 四五六
饑餓 九二
義俠心 九八・二九・一六一・一八四
氣候 三五二
寄生虫 四三
奇智 一五八
木登り 四〇九・四三三
筋肉運動の訓練 五〇
虐待 九三
ギヨウ 一三九
窮迫 九二・一六七・一八七
虚榮心 三八・八四・二五六・二六〇・一八四・二三五・二三七・二八三・三四五・四七一
恐喝 三一
驚愕 四五五
競技 一九二
嘘言 三九
—の種類 一四三
精神の發達上有り勝ちの一特殊な動機あつて起る— 一六六・一八三
習的にとなれる— 一六四・一八六
自然的— 一六九・一七
病的に起る— 一七二・一八九
—に對する興味 一五七
—に對する注意 一七九
鳥虫 四〇三
强迫 九六
强迫觀念 一七三・二五〇・三六五
恐怖 一五八・三四二・四五三・四五五
興味 四四
敎養者 二八一
キールマン 四一三
疑惑 四五三
誤解的— 三六五・三七九
反抗的— 三六六・三七〇・三七一・三七九
反對的— 三六七
反射的— 三六八
不平的— 三七〇・三七一・三八一
辯解的— 三七二・三七五・三八〇
阿諛的— 三七三・三七六・三八二
狎狂的— 三七三・三八二
熱中的— 三七四・三八三
諧謔的— 三七四・三八四
怠惰的— 三七六・三八四
—に對する注意 三七八
癖 五
食ひ歩き 二四二
クラフト・エービングク 四二五
リスチヤン 三九七・四二三
グリージンゲル 四二三
苦慮 四五五
クレペリン 四二五・四二六
繪畫 四二三
蛔虫 四七二・四七四

活動實眞 二五・一〇三・三五六・四一四・四六五
活動性 三六
寬大 三七二
觀覽物 三三
觀念聯合の自由 一五〇
經驗事實の錯誤 一四九・一五一
輕浮 二〇三
疥癬 四二・四二四
月經時 一二六・一七・三九九
潔癖 二四五
—の原因 二四八・三六八
遺傳的— 二四八
偶發的— 二五四
—に對する注意 二六一
—の矛盾 二六三
—の矯正 二六八
—の變形 二六九
倦厭の情 三九
幻覺 一七五
嚴格 二一・三五
言語の未發達 一四七
懸賞 一九六・二〇三
喧嘩 七〇・二〇七
好奇 七九・二三五・二四八・三七〇・四四三
好火性 三〇三
候鳥 一四
興奮物 二三一
交友 三一・二八・三五・一〇七・二六二・四一四
姑息 一九九
誇大な廣告 二四
小使錢 二〇八・二四一
コツホ 四二四
困難な作業 四五
娛樂の缺乏 二一・三四
ゴワース 四二四
（サ）行
猜忌 四七・二六一・一八四
ザイツ 四四九
錯覺 一七五
詐欺 三一
作慶本能 三五〇・三五七
作業 四〇
—に對する訓練 五一
—に對する興味 五〇
兒童の爲めの— 五一
雜居房 四一七
雜誌 一四四・一〇三・三五六・四一一
殺人狂 三三一
殺伐 二〇七
殺戮本能 三五〇
里子 二〇
殘酷 三二九
遺傳性— 三三一
發達上有り勝ちの— 三三三
境遇よりする— 三四六
—の競爭 三四八
—に對する注意 三五二
幼時の—性 三五八
自慰 三九九
—の起る時期 三九二
—と男女 三九六
—の原因 四〇〇
—者の外觀的特徵 四〇〇
—の害 四二一
—の矯正 四二四
的精神病 四二四
—に對する注意 四二九
—の豫防 四三一
詩歌 四一三
住宅 三七
自我擴張 七二・一三三
色情帶 三九〇
思鄕心 三〇九・三一七
刺戟物 三三一
自己色情 三九〇
自己保存の本體 一四
示唆 一五四
思春期 三・一〇・一〇五・三一三・三九九・四一三・四三一・四四七
自制力 四一七
疼疾 四〇三・四三三
叱責 一七・二四・二七・三五・一一一・一三一・四六九
疾斯 四七・九〇・一六一・一八四
執拗 三八三

自轉車乘り 四〇九
兒童の範圍 一
兒童遊園 三七
家具 四〇八・四六四
寢室 四六八
心臟病 四三・五〇
腎臟病 四三
心意の轉換 二七五
新聞 二四四・一〇五
身體虛弱 四〇一
神經衰弱 四一・五〇・一七五・二五五
神經質 一七・五二・一七五・二一〇・二四九・二五二・二五八・二六七
シーヤリー 四二七
社交本能 三三
社交慾 二八五
射倖慾 一九六・二〇二
社會の寄生者 三三
宗教的感情 二九六
蒐集本能 七四・一二五・一三五
蒐集の傾向 一〇八
種族保存の本能 一四
自由な活動 三三
少年期 三
小說 一八二・四三三
所有の觀念 六〇・六五・一二
所有物の交換 一二一
食人種 三三一
貧闘 三二・四三
酒精中毒 一五六・四二・五〇
シュティール 三五
思慮不足分 一〇八
睡眠 四三五
スターデルマン 四四九
スタンレー・ホール 一四四
二・三九一・三九五・四〇一・四〇八・四三三・四三六・四四八・四五六
ずぼん 四〇七・四三七
—のかくし袋 四〇七
ずぼん下 四〇八
生活上の餘裕 二八六
成功慾 二四四・三八
青年期 三
成年期 三
精神低格精神薄弱 一五五・二七八・二八〇・四〇一
精神發達の不健全 一五
精神發達の遲鈍 四三・五〇
精神病性體質 四〇一
性的感興 三八九
性的敎育 四五〇
性的經驗 三八七
性慾的惡癖 三九七
性慾的衝動 三〇五
性慾的崇物 一一九
精力の集注 四五
寂寞 三三
窃食 二一六
窃盜 三一・三二一
習慣性— 五七
—狂 一一四
一時の病的— 一一六
早熟 四〇三・四〇六
早熟的性的習癖 三九八
早熟兒童 四一三
憎惡 九〇・三四一
想像 一三二・一六九・一八一・一八二・一八八
爭鬪本能 三八・三五二
粗暴 二〇七
爭論 二〇七

（タ）行

貸借 三一
怠惰 三九・二〇五・四〇四・四三三
—の原因 四一
病的— 四一
偶發的 四四
—に對する注意 四九
怠惰兒
慢性の— 四八
—の處遇 四九
—の運命 五五
大都市 二四
駄菓子屋 一九九・二三六
ダムスキー 四四八
探偵小說 二五
他人の家 六八
痴愚 一六・二三六・三〇九・四〇一・四二四
知識慾 七九・三九〇

恥辱の感 二〇五
抽籤制增 二〇三
注意散漫 二八
注意の練習 三〇
知能低格 二八・二四
チーヘン 三八九・四〇四・四二八・四二〇
沈鬱 二〇五
追貸妄想 一七五
丁寧 三三五
ティッソー 三九七
溺愛 三八三
癖癇 四三三・四三四・四四九・四五六・四七二
—性素質 一六・一七五・三二五
—性異發性格 一二五・三六六
天候 四五六
傳說 三三五
デューク 四三三
問の不完全 三六九
動悸 四三三
動物の交尾 四二九
同情心 九六・二九九・三五九・三九三
道德的感情 一六一
道德的觀念 八〇
屠牛場 三四九
都會生活と田園生活 三五四
都市と彷徨兒 三七
賭博 一九六
—常習者 二〇三
富籤 一九六
頓才 一三八・三七五

（ナ）行

泣く癖 四七三
乳兒期 二
肉食と菜食 四五六・四六一
尿 四〇三・四三三
—の蓄積 四五三
姙娠時 二一六
盜み 五七
—の種類 五九
發達上有り勝ちの
—六四・二一〇
特別な動機ある—
八三・二一六
—の流行 一〇四
習慣性の— 一〇六・二一九
先天性の— 一〇七
性慾異常による— 二九
—に對する注意 二一〇
病的の— 二一〇
盜み食ひ 二一六
ネツケ 四三三・四三五
ネーテル 三九三・三九七
年長者の惡戲 四二五
寢呆け 四七三

（ハ）行

拜火敎 三〇三
肺臟病 四三・五〇・六〇三
排尿 四四五
破壞 三四八
破壞本能 三〇六・三二六
破壞的衝動 三〇五
梅 四〇八・四四五
白痴 一六・三二六・三〇九・四〇一・四三五
羽薄團 四〇八
花の栽培 三四四
母の惡愛 一〇
反抗 一一〇・三八三・三八五
反問 三六五・三七八
判斷の誤謬 一四五
バーク 三三七
バーンス 三八八
ハンス・グロース 一四五
早起 四三六・四三八
火と人類 三〇一
悲哀 四七
美食 四〇六
美的感情 二九六
ヒステリー 三一・一七五・二四九・二五二・二五三・二五八・四〇三・四一四・四三一・四四九・四六六
皮膚病 一〇三
平等の感 七七

ファウスト 四〇七
不安 四四二
フェリア ニ 一四二
フェレ 四二三
プイレー 三九二・三九七
不活潑 二〇五・三八二・三八六
—な兒童 二二九
不潔 四〇七
不潔癖 二七五
—の原因 二七六・二九一
遺傳的— 二七七
偶發的— 二九一
—の種類 二八八
—に對する注意 二九二
—に因る精神上の影響 二九四
感覺遲鈍と— 二九五
精神活動と— 二九五
感情生活と— 二九五
—の矯正 二九七
不健全な思想 四六
復讐 一一〇・一五九・一八四・二〇八・三二
三・三二七・三三八
不純潔 四二〇
物品の共同使用 七二
憤怒 四七・三二三・三二五
不良少年 二六・二〇六・三二八・三四七・
四五〇
—團 二二・三二一・三二二
無聊 四〇三
浮浪兒 四六九
浮浪人 一〇
浮浪本能 三三
フロイド 三九九・三九〇
へつらひ 一四〇・一八八
辯解 一六三・一八五・三四二・三四四・三八〇
偏狹 三八二
辨當物取 九三
便秘 四〇三・四三二
ベルクハン 四三三
ベルゲル 三九六
ヘルマン・コーン 三九二・四二三
放火の原因 三〇七
冒險心 二四四・三四八
冒險談 二五・一八二
彷徨 九・二四二
—兒 一〇・二〇・三二
—癖の原因 二一
病的— 一三五
偶發的— 一九
—に對する注意 二六
—に伴ふ危害 二九
—衝動 三六
來公 二三
妄想 一七三・三六九

（マ）行

饑子 二一〇
迷兒 一五・三二
マロ 二六七・四三四
みしん 四〇九
親物 四六二
無爲 一〇四・四三三
無氣力 一五九
夢中遊行 一六
夢遊 一六
夢想 三九九
迷信 二七九・三三五
名譽の感 二〇五
メイロヴスキー 三九三
朦朧狀態 九
問者の態度 三七一
模倣 一〇三・二九・一七二・一八九・一九
七・二五五・二七二・三四六・四二四
股引 四〇八・四三五
モル 三九二・三九三・三九七・三九九・四一〇
六・四二〇・四二七・四三五・四三八・四三七

（ヤ）行

夜間彷徨 三七
夜間營業 三七
雇人 四一六
ヤスペルス（本文にヤスペルとあるは誤） 三〇九
遊戲 一三・一九三・三一六・四三五
賣買の— 六四・二二一

優勝慾 一一〇・一九四・二〇三・三一九・三
三二・四三七
遊情性 二四二
遊牧の民 一四
夢 一三三・四五四
夜遊び 一五
養禽 三五四
養魚 三五四
幼兒期 三
養子 二〇
讀み物 三三・四六二

（ラ）行

ライデン 四二四
利己的慾望 一六八・一八七・三二五
冷水摩擦 四六三
冷水浴 四六三
レーヴェンフェルド 四三三
弄火・放火 二〇一
—の原因 三〇三
衝動性— 三〇五
—に對する注意 三一一
—と年齡 三一二
—と異常兒 三一二
—と他の惡癖 三一四
—の矯正 三一五
老年期 三
浪費 二四三・四七一
ローレデル 四〇五・四〇六・四三一
ロンブローゾ 一一・三三五

（ワ）行

猥褻文書 四二
猥褻な言語 三八八
繪草紙 三五

昭和十一年五月十三日 印刷
昭和十一年五月十八日 發行

兒童の惡辨

11.5.14

著作權所有

著作者　寺田精一

發行者　中村時之助　東京市牛込區辨天町一七四番地

印刷者　磯井安久太　東京市芝區田村町四ノ二〇番地

印刷所　安久社　東京市芝區新橋二ノ四八番地

發行所　東京市牛込區辨天町一七四番地　中文館書店　電話牛込三二五五番　振替東京三八四二七番

定價　金參圓五拾錢

兒童研究所紀要 八卷	兒童研究所紀要 九卷	兒童研究所紀要 十卷	兒童研究所紀要 十一卷	兒童研究所紀要 十二卷	兒童研究所紀要 十三卷	兒童研究所紀要 十四卷	兒童研究所紀要 十五卷
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著
四六判 假裝	四六判 假裝	四六判 假裝	四六判 假裝	四六判 假裝	四六判 假裝	四六判 假裝	四六判 假裝
382	336	417	338	380	481	370	410
四三〇 三	三八〇 三	四五〇 三	三三〇 三	三三〇 三	四三〇 三	三八〇 三	四三〇 三
その眞摯なる發表に依つて兒童研究所紀要の眞價は學界に既に認識せられつゝある所、その重要なる研究は學界の至寶たり。	久保良英先生の兒童研究所の研究報告は曾て歐米にも見ざる我が學界の金字塔として現代教育學の根柢を爲して居るのである	久保、福富、關、桐原、守田等兒童研究權威者の貴重なる研究諸論文を蒐む、現代教育學の根柢的權威、教育者の最新智嚢たり。	將來の國家を構成すべき兒童を心理的、生理的方面、純粹なる學的立場より研究す。學界に推奬せらるゝの書。	久保、桐原、迫田、小林、内田、増田、濱野諸先生方の兒童研究の貴重なる諸論文を滿載す。	兒童研究所紀要の十三卷、久保、關、松本、千葉外數氏の貴重なる新研究を集む教育家の必讀を乞ふ。	久保、佐藤、渡邊、霜島、内田、衣笠、牛島、木村、増田等諸先生方の貴重なる論文を蒐む。	有熱兒童と結核群の相關係、栗屋氏、數學の效果に關する一測定中邑幾太氏以下久保、古賀氏等の論文を蒐む。

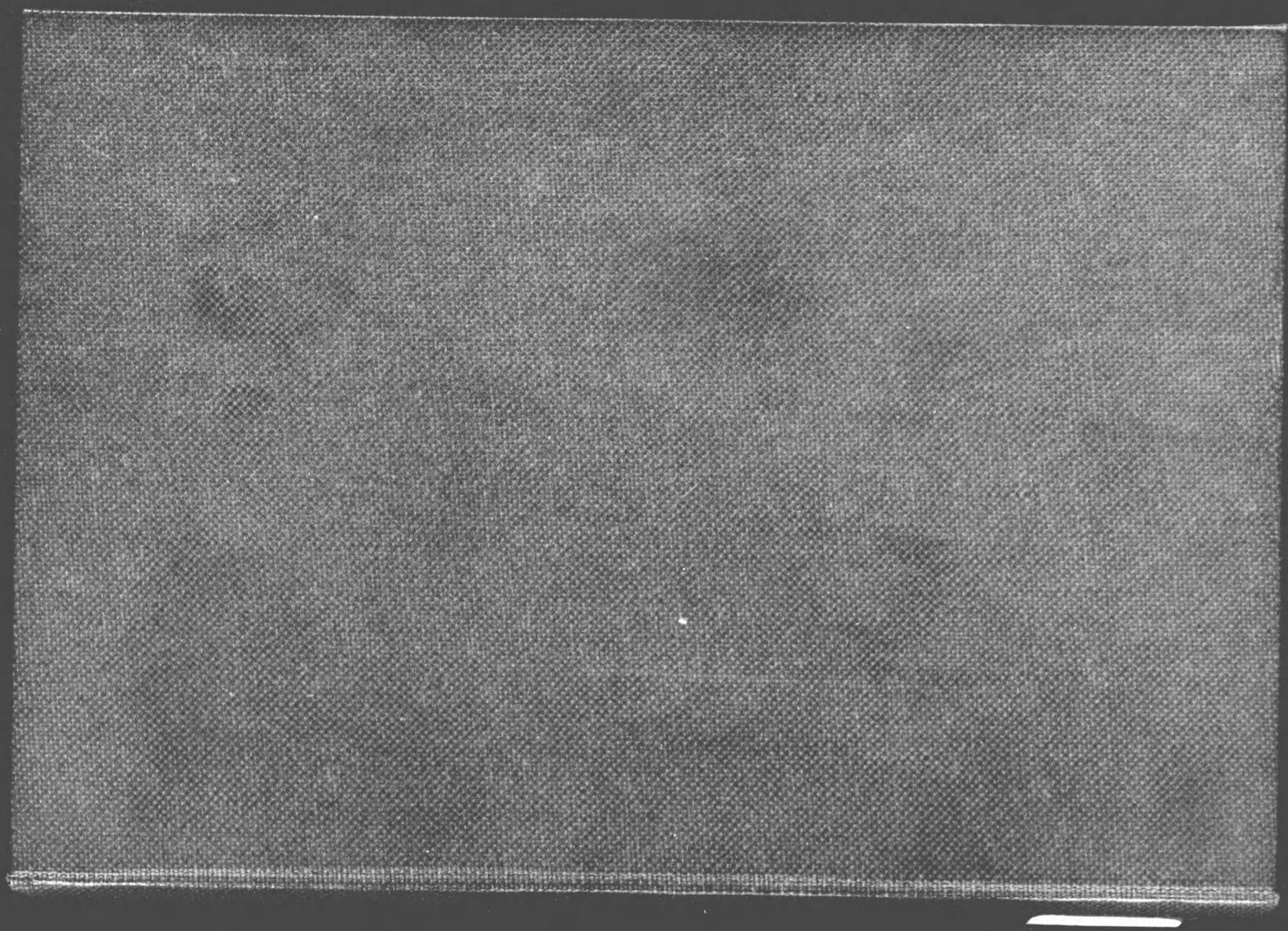
著者	書名	版本	冊數	價	内容
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	兒童研究所紀要十六卷	四六二判 假裝	396	三八〇 二三	久保博士の「紙上テストと器械テストの比較」を始とし研究所員の新研究すべてを收めて世に問ふ。
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	智能檢査用具	木箱入		三〇〇 二三	兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具、智能の檢定が本具に依つて最も手輕に出來る。
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	改訂版 實驗心理學精義 簡單行動篇	菊判 洋裝	762	六八〇 二三	複雜なる行動篇の前篇たりし實驗心理學の開拓を各種の行動の項目の下にその研究方法結果を詳述す學校軍隊工場管理者にも要必讀
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	實驗心理學精義 複雜行動篇	菊判 洋裝	794	六〇〇 二三	前篇簡單行動篇に對して複雜なる行動篇として以後の研究發表報告なるが、質量的交互の說述に依りて最新學說を說く。
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	現代心理學叢書 精神分析學	菊判 洋裝	530	四〇〇 二三	精神分析學に最も新しき色彩を添へ既往先人の研究をより深く掘鑿して其の全般を說き應用方面をも指導す。
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	現代心理學叢書 形態心理學	菊判 洋裝	424	三五〇 二三	ヴントやセームスの如き巨匠に依り建設された心理學の大殿堂を根柢から覆し全く異つた見地から精神現象を見直ほす。
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英著	愛兒良毅の教養	四六判 洋裝	276	一五〇 一〇	本書の全文は之添く眞摯なる學者の、愛と學とより見たる兒童教養實驗記錄である。
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英考案	團體的智能檢査用紙 A式 B式	菊判 假裝	12	三 〇	本用紙は久保先生の考案になる兒童智能檢査用紙團體的用。

著者	書名	版本	冊數	價	内容
應用心理研究會編 廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英主任	應用心理研究	菊判 假裝	一ヶ年三回發行 會費一〇		最近心理學に對する應用方面は頓に展開せられて斯學は凡ゆる科學の先驅を致し且つ夫等と關聯して社會の實際方面に働きかく、本誌は毎號諸權威の夫等に關する新研究を發表す。
應用心理研究會編	應用心理研究 第一卷	菊判 洋裝	534	三〇〇 二三	廣島文理科大學心理科の諸教授の研究論文の外に各大學教授の論文寄稿あり。
應用心理研究會編	應用心理研究 第二卷	菊判 洋裝	522	三〇〇 二三	廣島文理科大學心理科の諸教授の研究論文の外に各大學教授の論文寄稿あり。
應用心理研究會編	現代應用心理學概觀	菊判 洋裝	212	一二〇 一〇	心理學が社會の各方面科學の各部門に有する關聯は實に深い本書は斯界十二大家の研究を收む
廣島文理科大學教授 久保良英 中邑幾太著	數學教授の心理的研究	菊判 洋裝	450	三五〇 二三	本書は心理學的實驗が教育上確實なる基礎を與へる事を確信し永年の研究實驗の結果を發表せるもの。
廣島文理科大學教授 久保良英 中邑幾太著	柔道の心理的研究	菊判 洋裝	252	二五〇 一四	柔道を科學的に研究して學的法則を確立せる最も意義ある新研究である心理學徒柔道家教育家他一般人士の乞必讀。

一般素質檢査法の試み	東京文理科大學教授 文學博士	楢崎淺太郎著	菊判洋裝	416	五〇〇	本書は最近小學校生徒男女一千數百名につき嚴密なる素質檢査を施して、初めて試みられたる我邦唯一の素質檢査標準なり。
選拔法概論	東京文理科大學教授 文學博士	楢崎淺太郎著	菊判洋裝	582	五〇〇	楢崎博士の選拔法概論は凡百の選拔法著述中の完璧にして、豐富なる事、他の追從を許さず、斯界第一の好著。
兒童青年 精神力學的研究	東京文理科大學教授 文學博士	楢崎淺太郎著	菊判洋裝	504	四八〇	本書は兒童青年の精神を正しく理解して、之れに臨むべき教育の展開を圖明する爲の學的根柢にして新科學の建設なり。
學校選擇 職業指導 兒童素質檢査法	東京文理科大學教授 文學博士	楢崎淺太郎著	菊判洋裝	232	二三〇	入學試驗廢止に伴ふ兒童素質檢査の方法とじての標準を示し併せて小學卒業生の進むべき學校選擇と職業指導の基準を現はす
心理學概論 第一卷	東京文理科大學教授 文學博士	楢崎淺太郎著	菊判洋裝	300	二六〇	本書は楢崎博士が學的生活二十幾年の研究の收穫とも謂ふべき物にして、獨立の發表を多數含まるゝ好著なり。
一般素質檢査用紙	東京文理科大學教授 文學博士	楢崎淺太郎著	菊判假裝		三二	學校並官衙工場等に於て智能的素質檢査の實施に對して實費を以て提供す。
幼兒素質檢査用紙	東京高等師範學校教授 文學博士	楢崎淺太郎著	菊判假裝		六〇	新入學の兒童學的編制に臨み、一般素質檢査用として實費を以て提供す。
行動主義心理學	滿洲教育專門學校教授 文學士	日高直樹著	四六判洋裝	468	三〇〇	ロバート、エスウッドワースのエスタデーオブ、メンタルライフを譯解せるものにして、刺戟と應答の形式に於て行動心理學を說く

性格心理學と兒童研究	東京高等師範學校教授	小野島右左雄著	菊判洋裝	300	二七〇	性格心理學、兒童心理學、變態心理學等以下心理學の諸問題に對して最近の傾向に付て論ず。
最近心理學概說 上卷	東京高等師範學校教授	小野島右左雄著	菊判洋裝	390	三五〇	正に心理學の革命期に際して先輩をつけ今迄の心理學說を根本より覆して新體系の分野を切開く。
最近心理學概說 下卷	東京高等師範學校教授	小野島右左雄著	菊判洋裝	420	三五〇	最も新らしき心理學の體制を簡明正確に敍述す。著者は近時斯界の指導的立場にある人學者敎育家他一般人士の乞必讀。
最近心理學概說	東京高等師範學校教授	小野島右左雄著	菊判洋裝	765	五八〇	上卷下卷合輯
心理學要論	東京高等師範學校教授	小野島右左雄著	菊判洋裝	312	二〇〇	現代の科學的心理學の一般理論を一つの簡單なる體系の中に纏りて敍說せる心理學の要論である。
最近心理學基本的諸問題	東京高等師範學校教授	小野島右左雄著	菊判洋裝	228	二〇〇	其外遊中諸大家に就いてその蘊奧を極めし最も新しき心理學の研究を今回大成整理して世に問ふ。必讀を乞ふ。
兒童心理學精義	文學士	上野陽一著	菊判洋裝	756	五八〇	二十三章幾百節に分ち先生十年研究の心血を傾倒せる勞作、斯學研究者の一大寶典又文檢資料として、此上なき參考書である。
學校兒童 精神檢査法指針	文學士	上野陽一著	菊判洋裝	252	二七〇	學校兒童の精神能力の發達の程度を測定する方法を示し、知力の程度の診斷法を說き、其の結果の始末仕方を說敍明示し居る

ㅍ3R 91

(心理學)

著者	書名	版本	頁	價	内容
東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎著	劣等兒 低能兒 心理と其教育	菊判 洋裝	430	三八〇 三三	本書は心理學的及生理學的の實驗研究その取扱ひ、教育の方法等を插入畫を應用、懇切叮嚀に詳述せるもので好評嘖々。
東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎著	兒童心理學序說	四六判 洋裝	264	二三〇 一〇	著者は兒童心理學の權威單に知識の敍說に止まらず、兒童研究の方法を說いて其の諸問題の祕鍵を釋明す。
東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎著	保育學校(ナーサリースクール)實際研究	菊判 洋裝	82	八〇 一〇	這般紐育に於て、實際研究せる所產にして幼兒教育に當る教師保姆諸氏に取りては最良の教師なり、兒童研究家の良書として奬む。
廣島文理科大學教授 文學博士ドクトル 久保良英主幹 青木誠四郎主任	幼兒之研究 第一輯	菊判 洋裝	136	一二〇 一〇	低學年幼稚園教育に就て久保、長田、黑瀨、青木、川上、ピケットボールドウイン氏等斯界權威者の研究を輯む。
醫學博士 三田谷啓著	學童保健	菊判 洋裝	564	四五〇 二三	就學兒童の保健、衞生百般の事例に就て深奧なる學說と豐富な實驗で教育家、校醫諸氏の必讀を要す。
文學士 福富一郎著	メンタルテストの原理	菊判 洋裝	598	四五〇 二三	メンタルテストの理論及び實際に於ける眞摯なる研究の結果にして、最も親切叮嚀、且つ基本的科學的の解釋を提供し得る好著なり。
文學士 寺田精一著	兒童の惡癖	四六判 洋裝	500	三五〇 一四	兒童の惡癖の性質原因の研究と其の矯正法の心理學的の概念である。簡明の說述で實際的兒童教育の良書である。
佐藤良一郎著	教育的測定 統計法概要	菊判 洋裝	302	三〇〇 二三	本書は初等數學の智識丈けで理解出來る系統立てられた、教育的精神測定統計學唯一の實典として楢崎博士は推奬さる。